



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成30年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成29年12月	平成30年3月	前回調査比
茨城県	51.5	50.1	△1.4
県北地域	53.3	50.0	△3.3
県央地域	51.3	47.9	△3.4
鹿行地域	58.3	55.5	△2.8
県南地域	50.0	50.9	+0.9
県西地域	44.6	46.5	+1.9

《景気の先行き判断DI》

	平成29年12月	平成30年3月	前回調査比
茨城県	51.3	52.4	+1.1
県北地域	51.3	51.8	+0.5
県央地域	50.0	53.8	+3.8
鹿行地域	55.0	56.8	+1.8
県南地域	51.7	53.5	+1.8
県西地域	48.3	46.1	△2.2

平成30年4月

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問い合わせ先

茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、太子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客数】

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	285 人	95.0%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	59 人	98.3%
鹿行地域	60 人	55 人	91.7%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	57 人	95.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成30年3月調査の調査期間は、平成30年3月5日から平成30年3月31日である。

6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5点 \times 100\%) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

Ⅱ 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは50.1となった。平成29年12月調査（以下、「前回調査」という。）より1.4ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

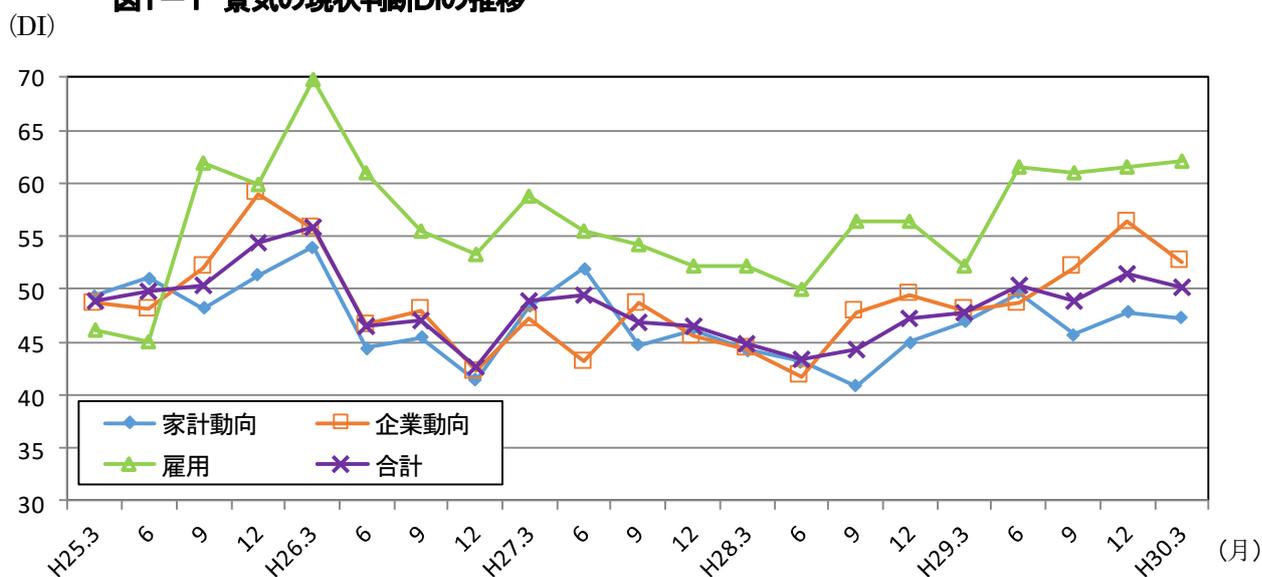
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		47.7	50.3	48.8	51.5	50.1
家計動向関連		46.9	49.6	45.7	47.8	47.3
小売関連		47.1	50.0	43.6	44.1	48.5
飲食関連		48.9	51.0	43.5	47.9	47.8
サービス関連		45.4	47.4	46.5	49.4	43.8
住宅関連		52.8	61.1	61.1	63.9	66.7
企業動向関連		48.0	48.6	52.0	56.3	52.6
農林水産業		37.5	50.0	57.1	50.0	46.9
製造業		46.3	47.9	54.3	54.6	51.0
非製造業		52.9	49.3	47.9	60.0	56.5
雇用関連		52.1	61.5	60.9	61.5	62.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成29年 3月	2.1%	17.0%	53.8%	23.6%	3.5%
平成29年 6月	2.4%	23.5%	50.3%	20.4%	3.4%
平成29年 9月	1.7%	20.2%	53.8%	20.2%	4.1%
平成29年12月	3.0%	25.3%	50.0%	18.0%	3.7%
平成30年 3月	2.5%	22.8%	51.9%	18.2%	4.6%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは52.4となった。前回調査より1.1ポイント上昇し、横ばいを表す50を5期連続で上回った。

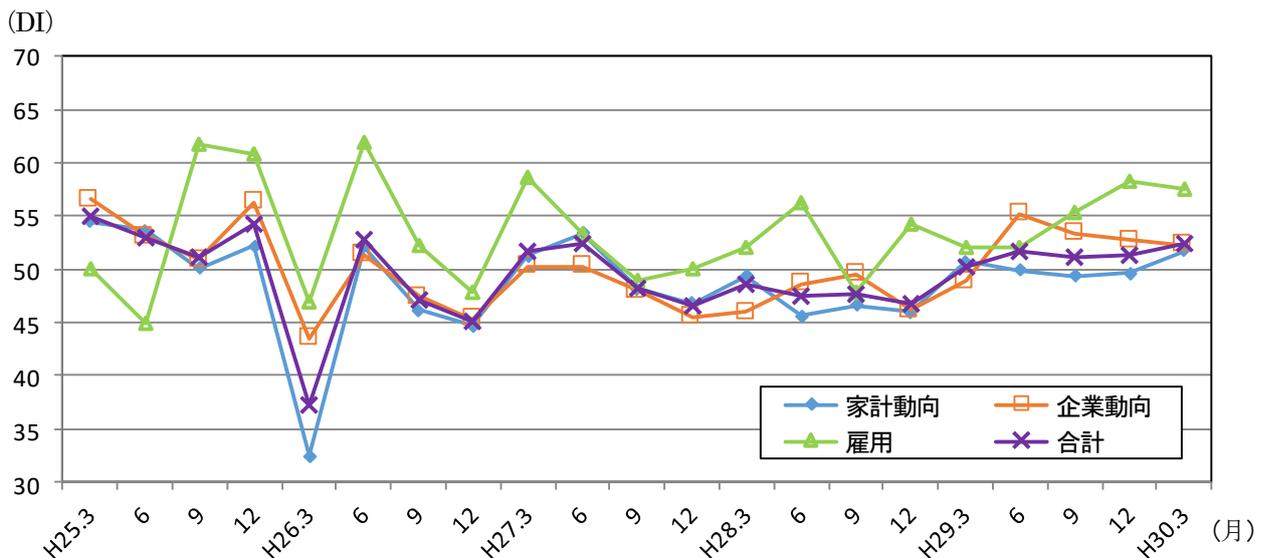
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		50.3	51.7	51.1	51.3	52.4
家計動向関連		50.7	49.9	49.4	49.6	51.7
小売関連		47.1	48.5	45.7	47.2	48.9
飲食関連		59.1	56.3	54.3	46.9	54.3
サービス関連		51.6	48.7	51.0	52.2	52.0
住宅関連		50.0	52.8	52.8	52.8	63.9
企業動向関連		48.9	55.2	53.4	52.7	52.3
農林水産業		50.0	68.8	60.7	46.9	53.1
製造業		49.5	53.1	52.1	54.1	52.1
非製造業		47.8	55.0	53.6	52.1	52.4
雇用関連		52.1	52.1	55.4	58.3	57.6

表1-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	20.8%	57.6%	16.3%	3.5%
平成29年 6月	1.7%	23.1%	58.8%	12.9%	3.4%
平成29年 9月	2.1%	20.9%	59.6%	14.4%	3.1%
平成29年 12月	2.7%	18.0%	63.3%	13.7%	2.3%
平成30年 3月	2.1%	25.6%	56.1%	11.9%	4.2%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは50.0となった。前回調査より3.3ポイント低下し、横ばいを表す50となった。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		46.4	51.7	52.5	53.3	50.0
	家計動向関連	44.5	51.4	48.6	50.7	47.1
	企業動向関連	50.0	53.9	61.8	60.5	55.3
	雇用関連	43.8	43.8	43.8	43.8	50.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	0.0%	16.4%	58.2%	20.0%	5.5%
平成29年 6月	1.7%	25.4%	50.8%	22.0%	0.0%
平成29年 9月	0.0%	26.7%	58.3%	13.3%	1.7%
平成29年12月	3.3%	28.3%	48.3%	18.3%	1.7%
平成30年 3月	1.8%	26.3%	45.6%	22.8%	3.5%

② 県央地域

景気の現状判断DIは47.9となった。前回調査より3.4ポイント低下し、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.3	51.7	51.7	51.3	47.9
	家計動向関連	46.7	50.7	50.7	46.8	44.9
	企業動向関連	50.0	50.0	48.4	56.3	46.9
	雇用関連	55.0	65.0	70.0	70.0	81.3

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	23.7%	42.4%	30.5%	1.7%
平成29年 6月	1.7%	27.1%	47.5%	23.7%	0.0%
平成29年 9月	5.1%	20.3%	50.8%	23.7%	0.0%
平成29年12月	1.7%	28.3%	43.3%	26.7%	0.0%
平成30年 3月	3.4%	18.6%	49.2%	23.7%	5.1%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは55.5となった。前回調査より2.8ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		50.0	51.3	47.9	58.3	55.5
家計動向関連		51.5	52.2	45.8	56.3	51.5
企業動向関連		48.5	47.2	48.6	60.5	62.5
雇用関連		45.0	60.0	60.0	65.0	60.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.8%	16.1%	62.5%	19.6%	0.0%
平成29年 6月	1.8%	24.6%	52.6%	19.3%	1.8%
平成29年 9月	1.7%	18.6%	52.5%	23.7%	3.4%
平成29年12月	8.3%	28.3%	53.3%	8.3%	1.7%
平成30年 3月	3.6%	32.7%	45.5%	18.2%	0.0%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは50.9となった。前回調査より0.9ポイント上昇し、横ばいを表す50を3期ぶりに上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.3	50.8	48.6	50.0	50.9
家計動向関連		48.6	50.7	45.6	47.2	48.6
企業動向関連		47.4	48.7	50.0	55.3	52.9
雇用関連		50.0	60.0	68.8	50.0	60.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	13.3%	61.7%	23.3%	0.0%
平成29年 6月	3.3%	18.3%	58.3%	18.3%	1.7%
平成29年 9月	0.0%	18.2%	60.0%	20.0%	1.8%
平成29年12月	1.7%	20.0%	58.3%	16.7%	3.3%
平成30年 3月	1.8%	21.1%	59.6%	14.0%	3.5%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは46.5となった。前回調査より1.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を16期連続で下回った。

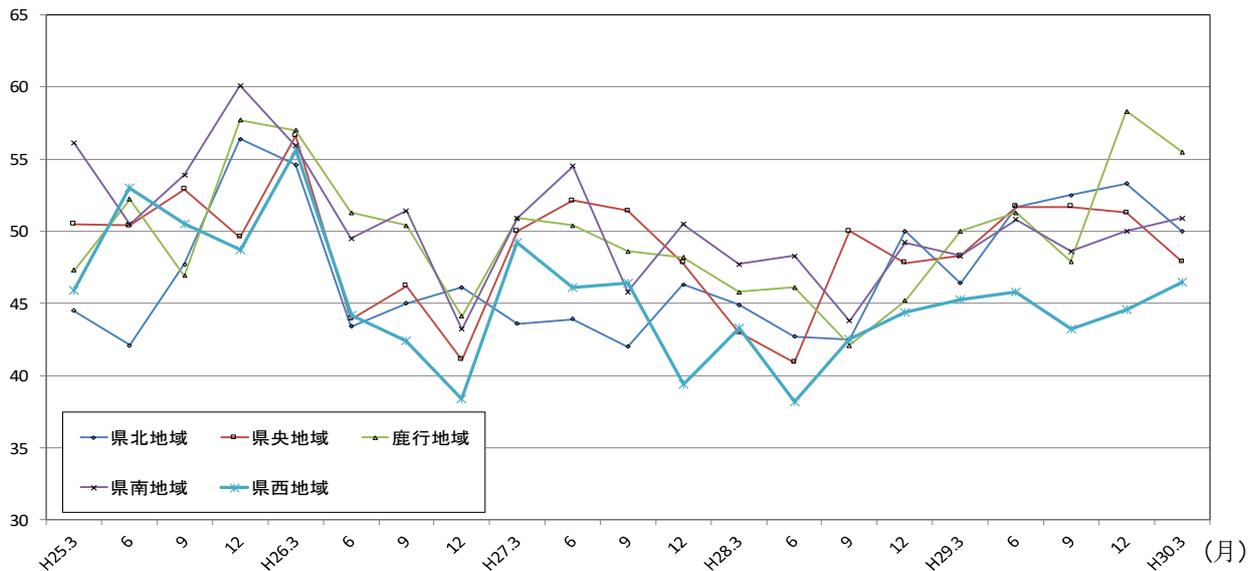
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		45.3	45.8	43.2	44.6	46.5
家計動向関連		42.9	42.9	37.1	38.2	44.7
企業動向関連		44.4	43.4	50.0	48.7	46.1
雇用関連		65.0	75.0	60.0	75.0	60.0

表2-10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	5.2%	15.5%	44.8%	24.1%	10.3%
平成29年 6月	3.4%	22.0%	42.4%	18.6%	13.6%
平成29年 9月	1.7%	16.9%	47.5%	20.3%	13.6%
平成29年12月	0.0%	21.7%	46.7%	20.0%	11.7%
平成30年 3月	1.8%	21.1%	59.6%	14.0%	3.5%

(DI) 図2-1 地域別現状判断DIの推移



	25.3	25.6	25.9	25.12	26.3	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	H30.3月
県全体	48.9	49.7	50.4	54.3	55.9	46.4	47.0	42.6	48.9	49.4	46.8	46.5	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1
県北	44.5	42.1	47.7	56.4	54.6	43.4	45.0	46.1	43.6	43.9	42.0	46.3	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0
県央	50.5	50.4	52.9	49.6	56.5	43.9	46.2	41.1	50.0	52.1	51.4	47.8	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9
鹿行	47.3	52.2	46.9	57.7	57.0	51.3	50.4	44.1	50.9	50.4	48.6	48.2	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5
県南	56.1	50.5	53.9	60.1	55.9	49.5	51.4	43.6	50.9	54.5	45.8	50.5	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9
県西	45.9	53.0	50.5	48.7	55.6	44.2	42.4	38.4	49.2	46.1	46.4	39.4	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5
全国	57.3	53.0	52.8	55.7	57.9	47.7	47.4	45.2	52.2	51.0	47.5	48.7	45.4	41.2	44.8	51.2 51.4	50.6 47.4	49.9 50.0	49.6 51.1	53.9 53.9	51.7(原数値) 48.9(季節調整値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.8となった。前回調査より0.5ポイント上昇し、横ばいを表す50を4期連続で上回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.2	52.1	54.6	51.3	51.8
家計動向関連		47.7	51.4	53.4	51.4	49.3
企業動向関連		47.4	55.3	59.2	52.6	56.6
雇用関連		56.3	43.8	43.8	43.8	50.0

表2-12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	0.0%	16.4%	63.6%	16.4%	3.6%
平成29年 6月	0.0%	25.4%	59.3%	13.6%	1.7%
平成29年 9月	3.3%	23.3%	61.7%	11.7%	0.0%
平成29年12月	3.3%	18.3%	58.3%	20.0%	0.0%
平成30年 3月	0.0%	24.6%	61.4%	10.5%	3.5%

② 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.8となった。前回調査より3.8ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		56.4	55.1	53.4	50.0	53.8
家計動向関連		58.6	53.3	52.6	48.7	52.6
企業動向関連		53.1	57.8	50.0	48.4	51.6
雇用関連		50.0	60.0	70.0	65.0	75.0

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	33.9%	52.5%	11.9%	0.0%
平成29年 6月	5.1%	25.4%	54.2%	15.3%	0.0%
平成29年 9月	3.4%	22.0%	59.3%	15.3%	0.0%
平成29年12月	1.7%	18.3%	60.0%	18.3%	1.7%
平成30年 3月	3.4%	30.5%	47.5%	15.3%	3.4%

③ 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは56.8となった。前回調査より1.8ポイント上昇し、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合 計		52.2	50.0	51.7	55.0	56.8
	家計動向関連	52.2	47.8	51.4	51.4	55.9
	企業動向関連	54.4	55.6	55.6	59.2	59.4
	雇用 関 連	45.0	45.0	40.0	65.0	55.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	3.6%	16.1%	66.1%	14.3%	0.0%
平成29年 6月	0.0%	17.5%	66.7%	14.0%	1.8%
平成29年 9月	0.0%	22.0%	64.4%	11.9%	1.7%
平成29年12月	5.0%	23.3%	60.0%	10.0%	1.7%
平成30年 3月	5.5%	25.5%	60.0%	9.1%	0.0%

④ 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.5となった。前回調査より1.8ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合 計		50.0	54.2	48.2	51.7	53.5
	家計動向関連	52.1	51.4	47.1	50.0	55.0
	企業動向関連	46.1	57.9	47.1	53.9	51.5
	雇用 関 連	50.0	60.0	62.5	55.0	50.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	20.0%	56.7%	20.0%	1.7%
平成29年 6月	1.7%	28.3%	58.3%	8.3%	3.3%
平成29年 9月	0.0%	20.0%	58.2%	16.4%	5.5%
平成29年12月	1.7%	16.7%	70.0%	10.0%	1.7%
平成30年 3月	1.8%	24.6%	61.4%	10.5%	1.8%

⑤ 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは46.1となった。前回調査より2.2ポイント低下し、横ばいを表す50を8期連続で下回った。

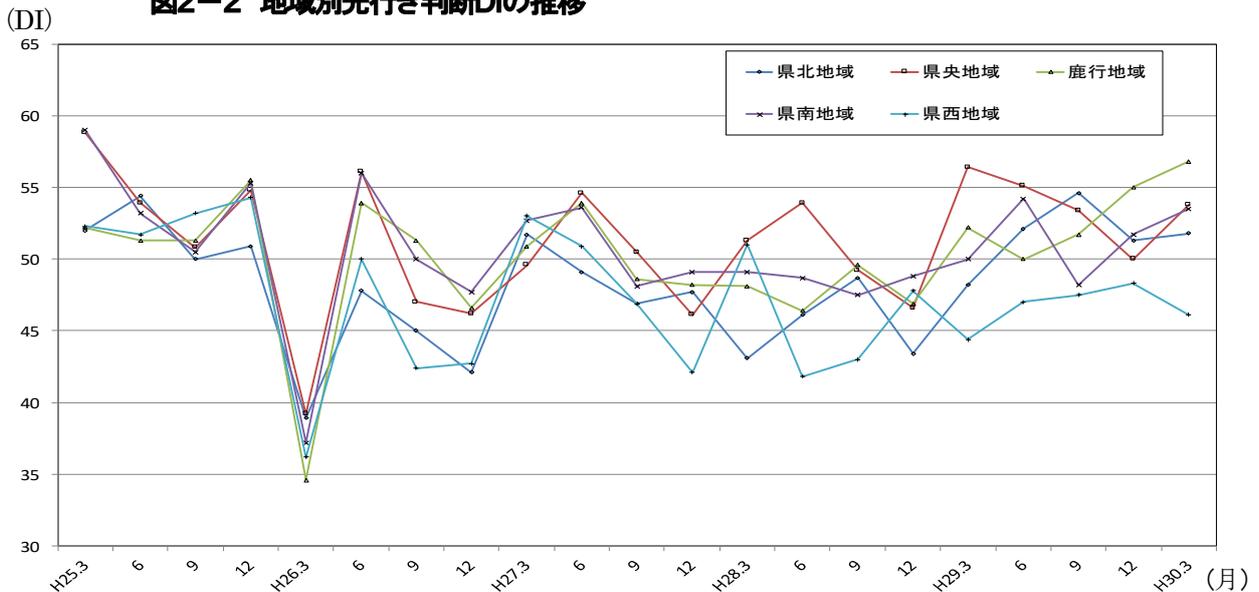
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成29年	平成29年	平成29年	平成30年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		44.4	47.0	47.5	48.3	46.1
家計動向関連		42.1	45.0	42.1	46.5	45.5
企業動向関連		44.4	50.0	53.9	48.7	43.4
雇用関連		60.0	50.0	60.0	60.0	60.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年 3月	1.7%	17.2%	50.0%	19.0%	12.1%
平成29年 6月	1.7%	18.6%	55.9%	13.6%	10.2%
平成29年 9月	3.4%	16.9%	54.2%	16.9%	8.5%
平成29年 12月	2.8%	11.1%	63.9%	13.9%	8.3%
平成30年 3月	0.0%	22.8%	50.9%	14.0%	12.3%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	25.3	25.6	25.9	25.12	26.3	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	H30.3月
県全体	54.9	52.9	51.2	54.2	37.1	52.7	47.1	45.1	51.6	52.4	48.2	46.6	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4
県北	52.0	54.4	50.0	50.9	38.9	47.8	45.0	42.1	51.7	49.1	46.9	47.7	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8
県中央	58.8	53.9	50.8	54.8	38.9	56.1	47.0	46.2	49.6	54.6	50.5	46.1	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8
鹿行	52.2	51.3	51.3	55.5	34.6	53.9	51.3	46.6	50.9	53.9	48.6	48.2	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8
県南	59.0	53.2	50.5	55.3	37.2	56.0	50.0	48.2	52.7	53.6	48.1	49.1	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5
県西	52.3	51.7	53.2	54.3	36.2	50.0	42.4	42.7	53.0	50.9	46.9	42.1	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1
全国	57.5	53.6	54.2	54.2	34.7	53.3	48.7	46.7	53.4	53.5	49.1	48.2	46.7	41.5	48.5	49.0 50.9	49.0 48.1	51.5 50.5	50.4 51.1	51.3 52.7	50.1(原数値) 49.6(季節調整値)

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（電気機械器具）	前年と比べ、受注額が増加傾向にある。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年度末を迎えていて、工事等が集中しているため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	お客様の使う金額が少し増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		自動車販売店	例年1～3月は需要期であり、3月になると動きが止まる傾向にあるが、この3月は例年になく来客も多く、動きが活発である。
		スナック	会社の人たちでの飲み会が以前より増えたからやや良くなっていると感じた。
		タクシー運転手	大手の車関連の部品作製工場があるが、ここの利用が多くなってきたようだ。利用者は国籍が多岐にわたり、当地区のタクシーも国際的になった。自動車関係は景気が良さそうで、その関連で部品工場も引っ張られ多少忙しくなってきたと思う。
		レジャー施設	全体的に客足がやや伸びているため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	厳冬で悪かった分、3月で昨年より客足が伸びている。
		写真店	家族での撮影が増加している。
		住宅販売会社	また、撮影後に写真を選択してもらうのだが、購入する枚数が増加している。優良な土地を仕入れれば、購入するお客様が増加してきた。
	企業	製造業（食料品）	業界全体の売上げが昨対比で5%超を維持している。原料、資材値上げ（概ね10%～15%）の影響による価格改定を、流通側でも相応に値上げ対応をしてくれるような環境になりつつある。
		製造業（電気機械器具）	半導体関連や有機EL関連の顧客からの注文が相当増えていると前回回答したが、さらに追加の注文が顧客からあった。納期対応に苦慮している状況である。
		製造業（電気機械器具）	様々な機種において、生産員数がアップしている。
		運輸附带サービス業	取引先営業等が、納品が間に合わなくなっている。
		学校就業関係者	来年度の求人が、既に数件届いている。
雇用	求人開拓員	企業からの求人依頼が増えているほか、紹介者が採用されるケースが増えている。管内の商工会主催の正社員採用合同面接会に多くの企業が参加するなど、企業の採用姿勢が積極的である。	
	家計	商店街代表者	前年比同士を比較して、あまり変わらないことから変わらないと判断した。
酒・各種商品小売業		この時期は毎年動きが良くない時期であるが、必要最低限の商品しか購入されないお客様が多く、衝動買いをするお客様があまりいないため、変わらないと判断した。	
小売業（弁当・惣菜店）		年間の流れの中での変化はあるが特に大きなものは感じない。	
小売業（燃料）		販売数量の前年比を3か月前と比較するとほとんど変わらない。	
小売業（水産物）		・前年比から売上げの伸びがない。 ・観光客（他県客）の伸びが目立たない。	
小売業（時計）		大都市の景気の良さが、未だ地方には向かって来ていない。	
食堂		仕事（職業）により大きな違いがあり、大工さんの仕事がなく、ホーム会社に聞いても金にならない。 ばらつきが多い。	
観光型ホテル		前年対比で売上げが変わっていない。	
タクシー運転手		乗客の話などを聞いても、あまり良い話が聞えてこない。	
ドライブイン		客数が土・日・休日伸びたかと思うと、平日の天候で落ち込んだりするので伸びがない。残念である。	
ゴルフ場		来場者や周りの動向を見ても特段変化が見えない。	
ボウリング場		団体利用が好調なもの、大会等に参加される常連の利用客が想定より下回るケースが多い。春休みシーズンは、一定の利用数を見込めるものの、季節的な波動に過ぎず、夜間～深夜帯も一般利用客も例年並みに推移しているため、景気が良くなっていると判断することは難しい。	

変 わ ら な い	企業	林業関係者	通常時と変わらない。
		水産業関係者	変化がみられないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	工事量に変化がない。
		製造業（化学工業）	国内の取引先の業況は変わらない。良くも悪くもないといった声が多い。
		製造業（一般機械器具）	期末による業務増加により、忙しくはあるが、景気動向としては変わらない。
		製造業（輸送用機械器具）	日産・富士重工の無資格者不正検査問題による生産調整が収束するも、北米販売の伸び鈍化等により期待した増産となっていない。 一方、中国での電動化のラインナップを保持している日本車の販売が好調であるが、現状では国内生産への影響が少なく、横ばいの状況である。
		製造業（精密機器）	全体的に横ばいで動きがない。
		建設業	取引先との話では積極的な動きはなく、景況感で言うと「普通」または「やや悪い」という感じだと言っている。
		金融業	取引先の売上げや利益率に関して、変化もなく、運転資金等の需要にも変化がないことから、変わらないとした。
		不動産業	受注数や顧客の予算について、回復傾向にない。
や や 悪 く な っ て い る	家計	情報通信業（情報サービス業）	商談は増加してきているが、なかなか受注には結びつかない。
		スーパー	来客人数や売上げ、特に惣菜の売上げが悪くなっている。
		コンビニエンスストア	働いている地元は、日立製作所を抱える企業城下町だが、残業削減や休日促進から所得の収入減が進んでいると聞く。
		衣料品販売店	来客数の減少からやや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	3か月前に比べて、150円程度客単価が落ちている。
		小売業（酒類）	今年に入って景気が悪い感じがする。街も静か。特に飲食店の来店客が減少している。
		中国料理店	客足が、飲食の場合、早くて安い食堂に集まっているように感じる。
		観光型ホテル	前年対比から判断してやや悪くなっている。
		旅行代理店	個人ツアーの受注が落ち込んでいる。
	ゴルフ場	12月初めは予約率83%に対し、3月初めの予約率は77%で、入りが6%悪くなっている。	
	企業	製造業（食料品）	消費者の低価格指向が強く、当社は昨年値上げしたため売上げ、数量ともに前年割れとなっている。（約5～6%低下） 価格競争がかなり厳しい。
		運輸業	建機部品を中心に年末の貨物量の増加が落ちてしまったことや、貨物の増加の予定が年末に開いていた量より少なかったことから、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	求人広告	昨年と比べて状況が良いとは言えない。
		公共職業安定所	新規求人数および新規求職者数が昨年同月に比べ、2か月連続で減少している。
	悪	家計	タクシー運転手

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野		
良	企業	製造業(精密機械器具)	自社製品、OEM製品共に好調な受注、売上げの状況が続いている。従来はどちらかが良いと片方が悪いといったアンバランスな状態だったが、今期は両方
	雇用	求人広告	求人数が増加したため良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業	茨城空港の利用者数が増加傾向にあり、当店の客数、売上額も上向きであるた
		タクシー運転手	例年に比べ、派遣会社から様々な仕事が入り込んでおり、乗務員1人当たりの
		ドライブイン	営業収入は増加しているため、景気はやや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	一年のうち客数が一番増加する梅まつりの影響のため、やや良くなっていると
		建築設計事務所	判断した。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	平日の動きは変わらないが、土曜・日曜・祝祭日のお客様は増加している。地
		製造業(一般機械器具)	元でも、県南地域や県外ナンバーが、多くなっているように思われる。外国の
		不動産業	方も多く見受けられる。
	雇用	公共職業安定所	引合いが増加してきている。
		学校就業関係者	4月納期の受注が例年と比較してやや増加している。
求人開拓員		物づくり、金属加工では緩やかながらも元気が出てきた。	
変わらない	家計	商店街代表者	来客数も増え、新築を購入して建築される方も増えている。
		商店街代表者	当所管内では、有効求職者数は平成24年4月から70か月連続で前年同月を下回
		百貨店	り、有効求人数は平成29年2月から12か月連続で前年同月を上回っていること
		スーパー	から、有効求人倍率は1.74倍と59か月連続で前年同月を上回っている。企業の
		スーパー	採用意欲は旺盛で求人数は堅調に推移しているが、求職者数の減少が止まら
		スーパー	ず、人材の確保がより困難になっており、ターゲットとする求職者層を広げたり
		コンビニエンスストア	求人票の条件(雇用形態、賃金、就業時間等)を見直す企業が増加してい
		農産物直売所	る。
		レストラン	企業からの求人および求人についての問合せが増加している。しかし求人情報
		レストラン	の大学生給与単価については変動がないため、人手不足と雇用の実態にアンバ
		都市型ホテル	ランス感がある。
		観光型ホテル	当センターへの来所者数(利用者数)、紹介件数、内定率を前回および今年度
		旅行代理店	来から比較してみると若干増加しているものの、ほぼ横ばいの傾向である。
		バス運転手	それに伴い、来年度運営職員の人員数を2名削減するといった方針が示され
		タクシー会社	た。また、これまで閉館していた土日を一部の週で閉館とし、平日の開館時間
タクシー会社	も1時間短縮し、午後7時までとなる。雇用情勢は緩やかに良くなっ		
観光名所	てきていると判断する。		

変わらない	家計	ゲームセンター	現状で、店舗として急激に売上げが増減した状況が発生していないため、変わ
		スーパー銭湯	暖かな正月から始まり、その後は数年に1度の厳しすぎる寒さと雪による不要不急の外出を控える人が多かったためか、屋内施設としては前年より利用者が減少したのではないかと。そのうえ厳しい寒さから、偕楽園の梅の開花が遅れているため、後年にしか観光客が見込めなくなっている。よって、やや良くなると思っていたことが変わらないと思われる。
		レジャー施設	契約艇等の増減に変化がないため、変わらないと判断した。
		理・美容店	当店は、12月は周りに開店した店もあり、少し客数が減ったが今は戻って来ているので安心した。
	住宅販売会社	前回の調査からあまり大きな動きは感じられない。	
	企業	製造業(食料品)	受注数が停滞したままであるため、今月の景気は変わらないと判断した。
		建設業	特に変化なし。
運輸業(道路貨物運送業)		貨物の増減はほとんどなく、例年通りの動きになっている。	
金融業		当組合取引先の中小零細企業等の客においては大きな変化はない。	
やや悪くなっている	家計	サービス業(広告業)	見積りや仕事の依頼が特に増減もなく、変化を感じなかったため変わらないと判断した。
		サービス業(コンサル/外業)	昨年と同じ程度の注文数であるため変わらないと判断した。
		百貨店	今月の前年比と3か月前の前年比を比べると、今月の前年比の伸び率は鈍く、客単価も下がっているため、やや悪いと判断した。
		スーパー	様々な物の値上げが3月から始まり、気分的に節約ムードになっていると思う。
		スーパー	1月の積雪後の2週間は客数が大幅に減少したが、2月に入って若干戻り、3か月前とほぼ変わらない。
		コンビニエンスストア	3か月前に比べ、客数・客単価ともに低下しており、売上げは3か月前以上に前年比が悪化しているため、やや悪くなっていると判断した。
		自動車販売店	販売台数が前年(直近3~4か月)を若干ではあるが下回ってきている。
企業	家計	割烹料理店	3か月前は年末の忘年会時期に入る頃だったので、3か月前のほうがやや良かった。
		都市型ホテル	歓送迎会シーズンを迎えたが、予約状況は好転せず、昨年より若干下回っている。
		旅行会社	バスの稼働が悪いため、やや悪くなっていると判断した。
		農業関係者	農家は農閑期であり、農作物の出荷も少なく収入がない。商工関係も観光客も少なく、収入は少ないと思う。
悪	家計	製造業(印刷・同関連業)	昨年12月はかなり忙しかったので、比較すると若干減の様相である。
		製造業(印刷・同関連業)	毎月の売上げ等日々の実績による。
		製造業(金属製品)	計画段階だった案件が次々に動き出した。仕事の量は増加傾向にある。
		ゴルフ場	1月後半の降雪により、述べ10日間のクローズを余儀なくされ、来場者が1000名程度キャンセルとなり、厳しい営業状況が続いている。
企業	家計	ペット美容室	昨年の1月、2月と比較すると売上高がかなり落ち込んだ。要因は分からない。年末年始や2月の連休と皆出費が多かったからなのか...。そうすると切り詰めるところは生活に支障がない部分ということなのかもしれない。ここ数年、やたらと政府は連休を作りたがる。そこで潤う職種もあれば決してそうではない場合もある。国民の休日を増やしてもサービス業に従事している者にとっては全く関係ないのが実情である。
		製造業(食料品)	天候のせい商品が動かない。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野		
良	企業	製造業（食料品）	当社、業績好調のため、良くなっていると判断した。
	雇用	公共職業安定所	有効求人倍率が1.8~1.9台の高い水準である。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	今年度は近隣工業地帯の定期修理の規模が大きいため、人の流れが活発になっているのでやや良くなっていると判断した。
		農産物直売所	集客数が増えていることと、近隣での野菜単価が高くなっていることから、やや良くなっていると判断した。
		小売業（菓子類）	今月の売上げの対前年比と12月のそれを比べると、今月の前年比の方が良い。
		小売業（食品）	直売所（道の駅ほか）や量販店（スーパー）等の売上げが増加している。（野
		小売業（書店）	改装の影響もあるが、売上げ、来客数ともに前年超えである。
		和食レストラン	客単価、来店客数ともに若干増加した。景気回復の兆しと判断した。
		洋食食堂	昨年に続いて客数・売上げとも伸びている。
		タクシー会社	人手不足が続いている中でも売上げが多少伸びていることと、工事関係者の仕事が多くなくなっていることから、やや良くなっていると判断した。
		理・美容店	物価の上昇とお客様の給与の上昇が、バランスの取れた形になってきていると思う。お客様からレジャーや外食の回数が増加したと聞いている。
	住宅販売会社	集客は順調に増えている。	
	企業	農業関係者	野菜類の販売単価も高く推移しており、景気の現状は昨年並みより若干上向いている。
		製造業（電気機械器具）	年末から、新規受注の引合いが多くなってきている。
		製造業（金属製品）	全般的にどの産業も活況のようである。受注が多くなり、団塊の世代の離職によって、人手が不足している。今後も人材難は避けられず、仕事量に見合った人手が足りずアンバランスである。
		建設業	ハウスメーカーの受注件数も多いが、地元の元気がある工務店（2社ほど）は、エネルギーを使用しない高断熱高気密住宅を客によく説明をし、受注を得ている。
運輸業（道路貨物運送業）		平均して取引荷主の仕事要請が発生している。特に建築資材関係の仕事は確実に発生している。	
金融業		全産業で慎重な姿勢ではあるが、一部業種では設備投資や運転資金への需要が少しずつではあるが見られる。	
保険業		トラックの増車が少し出てきている。	
変わらない	家計	商店街代表者	一般的に指摘されていることだが、賃金が上がらない中で消費マインドは上昇しない。
		スーパー	売上げ、客数ともに今月と3か月前の前年比に変化がないため、変わらないと判断した。
		スーパー	例年と比べて、1~2月の降雪や低温傾向で来客数に影響が出たが、3か月全
		家電販売店	売上げ、客単価ともに前年比では上回っているが、比率的には3か月前と同等のため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	値段ばかりを気にして買い物をする人が多すぎる。物の良し悪しより、まずは値段。買い方が貧弱すぎる。
		小売業（酒類）	周辺の人口は徐々に減少しているが、3か月前とでは比較するほどの違いはない。
		割烹料理店	送別会など年度末で予約は入ってきているが、宴会の予算は控えめである。
		観光型ホテル	予約の状況等を見て、変わらないと思う。
		タクシー運転手	必要最低限の利用がほとんどで、お客様との会話でも景気の良い話は聞こえてこない。
		ドライブイン	寒さにより農作物の成育不良の影響があったが、大きな景気の変化は感じない。
		レジャー施設	前年比を比べると大きな変動は見られず、売上げもほぼ同じ程度のため、変わらないと判断する。
	レジャー施設	売上もあまり変わらず、お客様からの問合せ数もあまり変化がない。	
	住宅販売会社	特徴のある変化が見られない。	
	企業	製造業（食料品）	原材料高により、商品の値上げをする（8%程度）も、売上げは横ばい。
製造業（食料品）		イカ・サンマ等の不漁の中で、比較的原材料面で恵まれているサバ・イワシの缶詰製品の販売は好調であるが、このことは消費者の低価格指向が続いている一面でもあり、なかなか景気上昇には結びついていない。	
製造業（鉄鋼業）		特段景気の変動に関わる動きは感じとれない。	
建設業		受注量の伸びがないように思われる。	
不動産業		特に変わらない。	
内装工事業		受注金額が増えるわけでもなく、仕事が来るまで耐える。	
火力発電所	売上げ等に変化は見られない。		

変わらない	雇用	人材派遣業	企業訪問時のコメントが「普通」という言葉が多い。「忙しい」という言葉はあまり聞かない。
		民間職業紹介業	人材不足によるマッチングに難がある。
		学校就職関係者	求人は多いが、質を求めている。学校でかかる費用に苦慮されている家庭も少なくない。
		求人開拓員	求人開拓に事業所をお伺いしたり、来所していただく事業所も求人の数は増加傾向にある。しかし、職種によっては全く応募者がいないのが実情である。担当者によれば現在就業中の従業員等との関係もあり、やみくもに条件等の緩和もできなくて困っているとのこと。
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	全体的な客単価は上昇しているものの、客数の減少は続いている。一部のみ景気が良くなっていると判断したい。
		衣料品販売店	12月はボーナス月ということもあって、靴下やタオルをついでに購入するお客様がいたが、この時期は必要な物や欲しい物をイメージしてから来店するお客様が多いので、買上げ点数や売上額を上げるのが難しい。
		日本料理店	医療系の会食が少なくなった。
		観光型ホテル	お客様があまりお金を使わない。
		タクシー運転手	売上げが減少している。
		タクシー運転手	今年の冬は一段と寒かった。街全体も冷えきってしまった。暖かくなってもそのままのように思う。
		ゴルフ場	インバウンドの予約が増加しているものの、全体の予約は昨年より減少している。
		理・美容店	年末に比べると悪くなっている。暖かくなってくる3か月後に期待。
	クリーニング店	季節の変わり目なので少し忙しいが、子供が少なくなっているので来客数が減っている。デフレも進んでいる。	
企業	製造業（食料品）	3か月前の12月は繁忙期でもあり、3月の売上げとは比較にならないが、3月の売上げを前年比で比べてみるとあまり変わらない。経費が高騰しているため、内容は悪くなっている。	
悪	-	-	-

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	
良	家計	住宅設計販売 契約件数を比較してみると、良くなっているように感じる。また、新規での問合せも多くなってきている。
やや良くなっている	家計	家電販売店 エアコン、冷蔵庫、洗濯機等高単価商品の動きが良くなっている。
		農産物直売所 野菜の価格が高騰し、お客様がスーパーから直売所に流れたため、客数・売上げが伸びた。
		小売業（生花店） 東京などの大都市部から高額商品の注文が増加している。
		都市型ホテル 宿泊では、お客様の動きがあり、稼働率も上がってやや景気が良く見えた。レストラン利用客と宴会利用客に関しては、全体に単価上げることもなく、変わらなく思えたが、宿泊分でやや良くなっていたようであった。
		タクシー運転手 月単位、年間契約という形の問合せが増えている。
	住宅販売会社 周辺の商業施設開発や学校の開校を間近に控えるなど、人の流動化が進んでき	
	企業	製造業（印刷業） 取引先の受注数が増えた。
		建設業 見積り依頼が多くなっているので仕事の量が増加すると思う。
		建設業 年度末で公共工事関係の受注が多いのは毎年のことである。民間からの注文もあるが、全て4月以降まで待ってもらうようお願いしている。また急ぎの工事も断っている状況である。公共工事関係の受注が多いため、景気は良くなって
	雇用	人材派遣業 人材不足の影響もあると思うが、新規の受注や問合せが増加している。
公共職業安定所 有効求人倍率が1.00倍を超える月が3か月継続したことや、微増ではあるが有効求人数も増加したことから雇用の動きがやや活発になったものと思料する。		
変わらない	家計	スーパー 売上げ、客数ともさほど変わっていない。
		スーパー 買上点数は変わらない。
		スーパー 客単価、前年比100%。
		コンビニエンスストア （買物に来るのは）固定客のため（ほぼ毎日同じ客）、変わらないと判断し
		コンビニエンスストア 客の買い物の仕方に変化がないため、変わらないと判断した。
		専門スーパー 店の客数、売上げにおいて3か月前と何ら変わらない。
		和食食堂 以前より来店客数は減少しているものの、売上げ的には単価が上昇した分、横ばいになっている。
		洋食食堂 特に変わらない日常だが、昨年から本年はなんとなく忙しい日が続く感じである。申告を終えてやはり売上げが少し伸びていた。変化なしと思っていたが、
		寿司店 いつもと同じお客様が、いつもと同じように来てくれている。
		都市型ホテル 宴会やレストランの予約は多くあるが、卒業に絡む謝恩会等であり、一般の予約は変わっていない。
		タクシー運転手 日中の動きは良いのだが、夜の仕事が少なく、あまり期待できない。
		タクシー運転手 お客様も景気は変わっていないと言っていた。
		サービスエリア 平成29年2月の茨城県内圏央道全通に伴い減少した常磐日動車道の交通量の傾向は特に変わっておらず、入館者数も減少傾向のままである。当商業施設のお客様の動向を見る限り、入館者数の減少はあるものの、各個人の購買意欲は相変わらず高い率を示しており、交通量の増加したエリアにおいては、それなりの売上げを示していることから、前回同様特段の景気の変化はないと判断した
		ゴルフ場 ゴルフ場の予約ベースが、例年と変わらない。大きな好況要因はないと思われる。通年で予約ベースに大きな変化はない。
		ゴルフ場 季節的要因を除くとすれば3か月前と比べ、大きな変化は見られない。平日は例年どおりの動き方をしており、今年特有点は見当たらない。
	工場見学案内 見学者数前年比は、12月：96.6%、1月：123.1%、2月99.8%で進捗している。年末年始での人の動きにバラつきはあるが平均して前年微増と捉えている。ただ、2月～3月は気温が低位で推移していることもあり見学者数減少に繋がっているため、景況感として、前年並みと判断している。	
	レジャー施設 景気変動を実感できる要素がないため、変わらないと判断した。	
	理・美容店 企業の業績は良くなってきたそうだが、客の給料や、ボーナスは良くなっていないようだ。	
理・美容店 周りが変わらない。		

変 わ ら な い	企業	農業関係者	3月期（初旬まで）の乗客数・客単価を今年度12月期～と比較するとどちらも共にやや減少傾向だが、これは毎年の傾向であり、前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。
		製造業（食料品）	年末までに正月用にといろいろ購入するので、毎年1～2月は消費が落ち込む傾向にある。
		製造業（金属製品）	3か月前と変わらない。
		製造業（食料品）	暖かくなってきたので多少客数が増えているが、景気は変わらないと思う。
		製造業（飲料）	変化はない。
		製造業（家具・装備品）	季節柄忙しいシーズンなので毎年のことと思っている。 次の調査の時はやや良くなってくれることを期待する。
		製造業（窯業・土石製品）	天候の影響により出荷が遅れ、売上げがずれ込んだので変わらないと判断した。
		製造業（一般機械器具）	これといった変化はない。
		運輸業（倉庫業）	例年通り年度末の動きはあるが、目立った動きの荷主は見受けられない。
		金融業	各業種とも売上が増加するなどの業況に特段の変化はなく、3か月前と比較しても変化はない。
雇用	求人広告	特に変化がない。	
	学校就職関係者	業務の関係から、景気状況よりも雇用状況が指標になるが、3か月前も雇用状況はよく、現在も求人があることから、よい状況が続いている感じを受ける。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	百貨店、総合スーパー	客数、客単価が低迷しているので、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（食品・酒類）	飲食カテゴリーの推移が若干鈍化しているように見える。野菜類の価格高騰がテレビ等で放送されているが、（そのため）家計に影響を及ぼしていることも考えられる。
		和食食堂	1、2月は良かったが3月は行事もないので、客が少ない。この減少幅は天候の影響等により、例年より大きい。
		日本料理店	11～12月よりは宴会がないため。
		タクシー運転手	迎車依頼及び乗り込み回数が、減少している。
		ボウリング場	高齢者の消費は安定しているものの、若年層の消費に不安定感がある。
企業	農業関係者	JAでの購買が減少している。 貯金残高の減少、販売高の減少等から、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（窯業・土石製品）	当社は、公共事業を主体に営業していることもあり、年度末に入り停滞している状況である。	
悪	家計	小売業（米穀）	仕入れ価格の上昇が止まらない。値上げの承認は、相変わらず難しい状態である。来年度の契約を打ち切られたところも出ている。
		旅行代理店	旅行業では、年度の切り替え時は普段からあまり動きがないが今年は余計に動きが鈍い。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野			
良	家計	和食食堂 テレビで店が放送された。		
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年々、来店客数が減少しているが、入学シーズンの客があるので助かる。	
		商店街代表者	人の流れが多くなってきているように感じる。	
		都市型ホテル	近隣都市で大規模な工事が始まり、職人たちの長期滞在が決まった。館内のレストランにも流れているので、レストランの売上げも伸びている。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	中国の春節により当社と競合している（中国の）加工メーカーが長期の休業になるため、国内の加工メーカーへ発注せざるを得なくなる。春節の時期により注文の数が変わるが、今年は2月16日だったので、例年より2月3月は工場の稼働ができた。	
		製造業（一般機械器具）	まとまった仕事の依頼があった。	
		不動産業	賃貸物件の成立単価が上昇している。	
	雇用	求人広告	一部で景気が悪いと言うお客様もいるが、大部分は忙しいと答える企業が多い。食品製造業のお客様の話では工場はフル稼働。社員に残業してもらいながら操業をしているという企業もある。着実に景気の良い話を聞く事が多くなった。	
		学校就職関係者	求人件数が多く、就職内定率は好調である。（新・事業所からの求人も多数あり）	
	変わらない	家計	スーパー	特別な変化は感じられず、消費状況（客数・客単価）傾向も変化はない。
			コンビニエンスストア	隣接するドラッグストアの影響を受け、当店は前年割れ（売上げ、客数）が続いている。しかし、天候の影響を考えなければ、客単価等に変化は見られないことから、変わっていないと判断する。
コンビニエンスストア			圏央道開通より1年が経過し、前年比は回復に向かっていたが、他業態からの出店が多く、変わらない状態。	
衣料品販売店			客数及び客単価に変化がない。	
家電販売店			オリンピックも終わりまた買い控えが多くなってきた。	
自動車販売店			販売台数のアップがないので変わらないと判断した。	
農産物直売所			売上金額が前年同期より上回っているが、微増のため変わらないと判断した。	
専門スーパー			客数、客単価ともに特別大きな変化はない。	
和食食堂			特別、お客様が景気がよくなっている話も聞かないし、悪くなっている話も聞かない。売上もそれほど変わらない。	
旅行会社			周りから聞くのは良くもなく悪くもなく・・・の話ばかり。	
タクシー運転手			地方の現況から、変わらない判断した。	
ドライブイン			品物不足に伴う価格高騰があり、消費者の買い控えが続いている。	
ドライブイン			来店者数も極端な変化はなく、客単価も横ばいであり、良くなっている実感は得られない。	
ゴルフ場			予約状況から変わらないと判断した。	
ゴルフ場			3か月前と比較すれば、やや購買意欲は低下しているが、ゴルフ場の予約状況は良化している。	
ゲームセンター			利用者は増加傾向にあるが、売上げ金額としては減少傾向にあるため。	
レジャー施設			来場者数や宿泊人数等特に変化はない。	
理・美容店			来店サイクルも長くなったままであるため、変わらないと判断した。	
建築設計事務所			相変わらず一部の会社オーナーや資本家が投資の様子見をしている。	
住宅販売会社		あまり変化は感じない。		
企業	農業関係者	前期より持続的に安定であると判断しているため現状維持と推測する。		
	農業関係者	日常業務で大きな変化が全くない。		
	製造業（食料品）	季節的要因を除くと、良くも悪くもなっている感じがしない。		
	製造業（印刷・同関連業）	期末なので、いつもの月よりは受注もあるが、努力はしていても年年歳歳、売上は減少している。どこの地方でも、スーパーやコンビニ、そして薬局が、市内の商店で扱っている食品から、くすりや日用品まで扱い、商店（小売）の売上げが以前からだが激減している。そのため、地方の受注が減っているのも受注減の要因のひとつ。		
	製造業（金属製品）	新年度以降の試作・開発用品あるいは量産化の準備段階に入ってきた物件もあるが、業界（得意先）によっては、全く変化のない業界もあり、総体的な業況としては変化なし。		
	建設業	受注が横ばいの為		
建設業	今期は仕事も安定していると思う。			
金融業	3ヶ月前と比較して、中小零細事業者の業況が改善しているとは思われなく、			

変 わ ら な い	雇用	人材派遣業	新たな求人の案件が入ってこないため、変わらないと判断した。
		公共職業安定所	人手不足の状況は全ての業種で依然続いている。求人件数は派遣、請負求人も含め前年度を上回っている一方、求職者は月ごとにばらつきはあるものの、平均して前年度より1割程度の減少となっている。結果、一部の業種（運送業、介護関係）では、人が集まらず業務縮小を余儀なくされている事業所も出てきている。そうした結果を踏まえ、現在及び今後の景気拡大は順調に進まないと判断する。
		求人開拓員	事業所から人手不足の話をよく聞かすが、ここ数か月の様子を見ても、特段景気が良くなったとは思えない。
やや悪 くな つ て い る	家計	日本料理店	来店客数が減少している。客単価は横ばい。アルコールは控えめのような気がする。 深刻な人手不足。
		飲食業	3か月前の売上げと比較してやや悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	年度の切替え時期のため、外食にかかる費用は節約する傾向にあり、来客数の減少を感じている。客単価も減少しており、例年と比べても宴会等が少なくなっている。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	需要と供給のバランスが崩れており、デフレスパイラルの渦巻きが止まらない。
		製造業（印刷・同関連業）	季節的要因を除外すれば、間違いなく受注減少の傾向にある。
製造業（化学工業）		季節要因で例年1～3月は受注がやや落ち込む（中国旧正影響他）。	
製造業（電気機械器具）		一部の部門で受注量減少による、人員体制の見直しを行っている。	
悪 く な つ て い る	家計	製茶販売	財布の紐が固くて、買いに来てくれるお客様が減っている。 扱っている商品がお茶なので、各家庭で飲む習慣が薄れているように思われる。
		旅行代理店	野菜を含め、あらゆる全ての商品が値上がりしていて、手が届かない。燃料も高騰が続いている。
		タクシー会社	例年になく前年の売上げが悪い。年が明けても減少傾向にあり、厳しい状況が続いているため、悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	利用客が減少し、営業回数も少なくなっている。以前より客待ちの時間が多くなっているため、悪くなっていると判断した。
		クリーニング店	物の値上げにより、買い物を渋るようになった。
	企業	製造業（食料品）	良くなっている要素が全くない。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	小売業 (弁当・惣菜店)	早く暖かくなったせいか、人の流れが早く始まっている。また、例年より不況感が薄れた感じがある。
		小売業 (時計)	期待を込めて、良くはなっていくと思う。
		食堂	入学、卒業により、ママ友達のお茶会などで、飲食関係、特にファミレスは良くなると思う。
		観光型ホテル	予約問合せなどの動きが見られるようになってきた。
		タクシー運転手	近隣の企業各社の景気は上向き傾向にあり、新年度の事業計画も強気に推進されそうである。ある企業では大学院生等の企業の見学会等を早めに積極的に行っている。そのようなところから判断すると、企業はやる気満々で、営業の人を中心にその他打合せ担当の人の来訪も活発化しそうなので、3が月先の景気は「やや良くなっている」とした。
		ドライブイン	毎年このことであるが、天気が良ければ景気は良い。ただしイベント等を目的に来店する人は、あまり単価が高い物は購入しないので売上げは少しだけ伸びると思う。
		レジャー施設	回答者の職種がレジャー施設であるため、天候に左右されやすい業種であるが、それを除くと従前と比較し利用者および売上げが増加傾向にある。
	企業	製造業 (食料品)	人手不足による賃金の底上げ感、生活必需品の値上げによる消費金額自体の上昇(軽度のインフレ傾向)が起こると考える。
		製造業 (電気機械器具)	前年と比べ、受注額がやや増加する見込みである。
		製造業 (電気機械器具)	当面、半導体関連や有機EL関連の顧客から注文増への対応が継続しそうである。
		製造業 (化学工業)	円高が進行して輸入原料価格が下がる傾向にある。
		製造業 (電気機械器具)	2018年4月から、新機種(中国向け)案件が急増する。
		情報通信業 (情報サービス業)	商談数が増加してきていることから、少しずつだが景気は良くなると感じる。
	運輸附带サービス業	関係会社も作業が増えてきていると言っているの、やや上向きになっていると思われる。	
変わらない	家計	スーパー	全体的には使える金額に上限があると思うため、変わらないと判断した。
		スーパー	今まで変わらなかったのが少し悪くなったのでこれ以上は悪くならない。
		酒・各種商品小売業	収入が増えれば良くなると思うが、まだそのような見込みは身の周りではないため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	景気が好転する事由が考えられないため、変わらないと判断した。
		衣料品販売店	これ以上は悪くならないと思う。
		自動車販売店	このまま活発な動きが続いていくことが望ましいが、何が要因でのことなのか掴めないため、楽観的な判断はできない。
		農産物直売所	客単価は横ばい傾向にあり、この先も続くと思われる。
		小売業 (燃料)	特別な動きはない。
		小売業 (水産物)	県北地区の景気の良い話題を聞かない。 買物の客単価が上がらない。
		スナック	若い人たちがあまり金を使わないように思う。
		中国料理店	賃金が変わらない気がする。
		観光型ホテル	日本国そのものに不安があるため、景気は良くならないと判断する。
		タクシー運転手	市内の大手企業を中心に働き方改革が浸透しはじめ、残業者の数がかなり減少傾向にあり、深夜残業者の宅送などが急激に減少しているのが現状。
		ゴルフ場	閉場したゴルフ場の影響も相まって3月はやや良くなっている気がするが思ったほどではないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	例年並みに予約状況が推移している。
		ゴルフ場	景気が大きく変わる兆候が見受けられない。
		ボウリング場	・新たにボウリングを始めたいという客が増加する見込みが薄い。 ・レジャーとして楽しむお客様がリピートしておいでいただけるようになり、その頻度が増加することで景気感も良くなったと思えるが、情勢は厳しいものと思われる。
写真店	人口も減少しているの、急激に変わるものでもないと思う。		
住宅販売会社	3か月では大きな変化はなさそう。		

変 わ ら な い	企業	林業関係者	大きく変化はないと思う。
		製造業（電気機械器具）	既受注案件を考慮し、変化が伺えない。
		製造業（食料品）	お客様が店頭で日配品（毎日店舗に配送される食品）を買うのを見ると、特に高齢者など、年金暮らしの人は安いものしか買わないようだ。生活が厳しいのではない
		製造業（輸送用機械器具）	横ばいである現在の状況から大きな変化は期待出来ないと想定される。
		製造業（精密機器）	動きに変化はない。
		建設業	取引先との話で、先行きについても3か月前比較と同様で、さほど変化はないだろうとのこと。
		運輸業	数か月の間隔では多少の増減はあっても、半年間隔で見ればさほど変わらない状況が続くと思われる。
		金融業	3か月先においても、現状の業況に変化が見られる兆しはまだなく、景気回復が取引先へ波及するには、もう少し時間が必要であると感じられることから、変わらないとした。
		不動産業	顧客数が、増加する傾向になく、厳しさは変わらないと思う。
		雇用	求人広告
公共職業安定所	有効求人倍率が前月に比べ、0.01ポイント減で応募の動きも鋭い。		
求人開拓員	新卒者の募集が埋まらなかった企業の採用姿勢は変わらないように思われる。年度の途中の社員募集も含め、積極的な採用姿勢は今後も続くと思われる。		
やや 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	野菜など食品価格の高騰をはじめとし、生活関連の物価や料金が上昇してきており、先行き警戒感から消費が減退傾向に向かうと思う。
		商店街代表者	新年度の物件への見積依頼が減少している。設計事務所の見積依頼もまだまだ少ない。
	企業	小売業（酒類）	現況では、期待できない。
		旅行代理店	3か月先は、旅行シーズンにもかかわらず受注が前年に比べて落ち込んでいる。
		水産業関係者	人材不足の空気を感じ、先行きを悪く感じた。
悪	家計	製造業（一般機械器具）	海外のリスクを踏まえ、悪くなる可能性はある。
		タクシー運転手	先が全般的に見えにくい。

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	割烹料理店	3か月先の6月にはサッカーワールドカップがあるので、陽気に酒を飲みに来る客が増加することを願っている。
	企業	農業関係者	彼岸等もあり、また、直売所での花卉や春野菜等の出荷もあり、収入が増加する。また、陶炎祭の開催もあり、観光客も多く訪れ、商工関係は収入が増加すると思う。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	仕入先などから、以前よりは上向きになってきたというような話題が出るようになった。
		スーパー	賃金のベースアップがよくニュースで流れているので、やや良くなっていると判断した。
		小売業	今後も茨城空港利用者の増加が見込めるため、やや良くなっていると判断した。
		バス運転手	燃料の高騰で自家用車使用が減少し、バス乗車が増加すると思う。
		タクシー運転手	今の状態をキープできれば、今月と同様に景気が良い状態にあると思う。外国人労働者に頼らざるを得ない状況では、タクシー業界全体が好循環すると思う。
		ドライブイン	観光地なので、これから、新緑、花、近隣の大洗、笠間などの観光シーズンを迎え、そのついでに立ち寄ってもらえるのではないかと期待を込めてやや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	圏央道、北関東道と、少しずつ認知されて利用されてきている感があることと県外ナンバーが増えると感じることから、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	3月に入り、来場者数も前年対比で増加している。その後についても、優待制度の効果により、予約数も順調に推移している。
		スーパー銭湯	昨年は繋がりが後半に良くなっているゴールデンウィークと海浜公園のネモフィラの満開の時期が重なり、各局のTVの報道により近県や周辺からの観光客で周辺地区は賑わったことを思い出す。寒い冬ではあったが、これからの気候に期待して昨年以上の賑わいを期待する。少しずつ客単価の上昇が見られてきているところであり、さらなる上昇が期待できる。
	住宅販売会社	年度が変わり、各社の決算状況次第では良い方向に動くと思われる。	
	企業	製造業(窯業・土石製品)	墓石に関して、国内産石材の需要が増えつつあるように感じる。
		製造業(金属製品)	受注につながりそうな見積りや計画が多数あり、今後忙しい状況が続くと思われる。ただし、原材料、副資材、消耗品、サービス等のすべてが高騰しており、価格への転嫁が課題である。
		製造業(一般機械器具)	少し先の仕事も入るようになった。
		不動産業	事業用の賃貸も増えている。事業用の賃貸の成約数が増えれば、人の流れも変わっていくので、今後も期待できる。
雇用	求人広告	若年、未経験者の採用にも力を入れる企業が増加している。	
	公共職業安定所	景気の先行指標である新規求人数は前年同月比で増加傾向であることから、海外情勢の急変等がない限り、今後3か月も今の状態が継続する可能性が高い。ただし、一部の企業で不採算部門からの撤退や組織再編等により雇用調整を実施する予定があり、業界によっても温度差が表れ始めている。	
	学校就業関係者	新卒人材を求めるニーズの増加に伴い、給与単価が増加していけば期待できる。	
	求人開拓員	異常気象に伴う野菜の高騰は極端であるものの、流通業界(コンビニ、スーパーマーケット)における物価上昇は緩やかに進んでいるように感じる。また、労働局の有効求人倍率、新人求人倍率も月を追うごとに緩やかな上昇傾向を示している。今後の景気は更に良くなっていくと予想される。	
変わらない	家計	商店街代表者	入学者用品を納入しているが、ここ数年、少子化が表れてきている。毎年、少なくなってきたかなと思う程度の減少傾向だが、数年前と対比すると3割減程度になっている。販売価格も据え置きのまま、仕入れ価格が上がっているため、厳しいまま変わらないと判断した。
		百貨店	3か月先も今月と同等の客単価で推移すると予測されるため、変わらないと判断した。
		百貨店	消費に関しては慎重なスタイルは変わらない。今後も急に変化があるとは思えない。
		スーパー	客の利用は変わらないため3か月先も変わらないと思う。
		スーパー	4月も各種値上げの予定があるので、なかなか消費は上向きにならないと思う。
		スーパー	社会情勢に大きな変化は少なく、購買衝動に大きな変化がみられていないため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	特に変化の要因はない。
		農産物直売所	バーベキュー、レストランの予約も平年並みとなっている。
		レストラン	良くなる要素が見当たらない。
		レストラン	先行きの予約状況も例年と変わらない状態である。
		都市型ホテル	変化なし。
都市型ホテル	先の予約の伸びを見ても昨年同時期比較で下回っている。		
観光型ホテル	大きな好転は望めないと思う。		
観光型ホテル	予約状況から比較して昨年同期とほぼ同じような状況と思われる。		

変わらない	家計	タクシー会社	特に良くなる要因も悪くなる要因もないと思われるため、変わらないと判断した。
		タクシー会社	観光事業、子育て支援事業等の利用が増加すると思われるが、法人・個人の利用が緩やかに低迷していくと思われる。
		観光名所	売上げが増加する要因が今のところないため、景気が良くなっているとは思えない。配送料も各社値上がりしており、発送だけでなく、商品の購入自体を控えるお客様も中にはいるのではないかと。
		ゲームセンター	当店限定で考えれば、昨年この時期は店としてボロボロの状態だったので、そこからすれば良くなっていると言えるが、あくまで全体の景気が良くなった、という判断は何もできない。
		レジャー施設	契約艇等の増減に変化がないため、変わらないと判断した。
		理・美容店	当店は毎年3月と6月は変わらないので、特に変化はないと感じる。(あくまで当店の話)
		ペット美容室	3か月先は6月。梅雨に入り売上げは伸びる時期に入ってくる。競争店も増えているので、これまでのようにはいかない場合もあるが、信念を持って頑張るのみ。季節要因を除くとすると、希望的観測だが横ばいであると判断する。
	建築設計事務所	公共、民間とも、建築への設備投資は改修、増築工事等の難度の高い割には収益が少ない仕事が依然続いている。	
	企業	製造業(食料品)	大きな変化を感じないため、変わらないと判断した。
		製造業(印刷・同関連業)	お客様からも意見を聞いているが、職種によって景気の変動はある。
		製造業(精密機械器具)	日本の景気の見通しでは、今年1年は追い風だと思うので、少なくとも横ばいは維持するものと思う。
		建設業	金融の流れが末端で感じ取れない。底を尽きた経済の流れを維持しているように感じ取れる。
		運輸業(道路貨物運送業)	貨物の動きに大きな変化はないと思われる。
		金融業	今後3か月程度では先行きの不透明感が払拭されるとは思われないため、特段の変化はないと思う。
サービス業(コンサルタント業)		変わる様子がない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	売上不振により2店舗が撤退することになったことと、後継店舗に物件を紹介しても反応が鈍いことからやや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	インターネットで購入した商品店頭受取り、ネットオークション等での商品発送、代金支払いが増加し続けている反面、店舗での商品の買上げ点数や商品単価は低下し続けていることから、やや悪くなると判断した。
		自動車販売店	通常でも4～7月は前期の反動で落ち込む時期なので、今期も緩やかに減少するのではと思う。
		楽器販売	大型商品の動きが甚だしく悪くなっている。
		旅行代理店	旅行の申込み件数が減少している状況から、景気はやや悪くなっていると思う。
		旅行会社	バスや旅行の申込みが少ないため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	価格の下落から、やや悪くなっていると判断する。
	サービス業(広告業)	例年、春から夏にかけての消費行動は鈍いため、広告予算をかけていない。	
悪	家計	レストラン	食材の仕入れ原価が上昇している。
	企業	製造業(食料品)	観光地の旬は短い。天候による不調はなかなか取り戻せない。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	コンビニエンスストア	今年度は近隣工業地帯の定期修理の規模が大きいため、人の流れが活発になっており、まだ定期修理期間中のため、やや良くなっていると判断した。	
		農産物直売所	春メロンの時期で集客が増加する。	
	企業	製造業（食料品）	当社、業績好調のため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	茨城国体・オリンピックに向けた取組みが、徐々に経済効果として表れてくるのではないかと。	
		小売業（食品）	今日まで毎日が忙しかった。これからも忙しいと思う。	
		和食レストラン	北朝鮮問題も一服し、株安も大きな影響なく、ゆっくりとした流れながら、景気回復の雰囲気がある。	
		タクシー運転手	歓送迎会が多くなる。	
		タクシー会社	株価の変動が大きすぎるが、実体経済は良くなっていると思う。	
		ドライブイン	ゴールデンウィーク以降は暖かくなり行楽シーズンになるため、経済効果を期待したい。	
		理・美容店	来店サイクルが早くなり、客単価も上昇しつつある。少し高価な化粧品等も売れるようになってきているので、この様子で当分は良くなっていくと感じる。	
	企業	農業関係者	今年度は、賃金の上昇率が 대기업から中小企業まで徐々に広がってきており、今後、農家所得向上にも繋がってくると思われる。	
		製造業（電気機械器具）	国内回帰の動きもあり、受注は上向いてくると思われる。ただ、慢性的な人手不足を払拭できるかが問題となりつつある。	
		製造業（鉄鋼業）	春季闘争の会社回答は軒並みベースアップとなっており、消費からの景気回復を期待したい。	
		製造業（金属製品）	高齢者が増加し、I C、I o T、I T等の産業が今後の日本を支えるものと思う。 (実例ではロボット産業、知能を活かすI Cは、生産能力の50～100%UPで大忙しの状況)	
		金融業	取引先の中小企業者においては、売上げが増加傾向にある業種も見られはじめていることから、3か月先には他業種にも波及してくると思われるので、やや良くなると思う。	
		保険業	若年者の給与が上昇している。	
	雇用	学校就職関係者	昨年度に比べ、求人依頼は、増えている。また、企業からの問い合わせや、訪問が多いように思える。	
	変 わ ら な い	家計	衣料品販売店	梅雨の時期は来店人数が減少するので、「欲しい」とお客様に思ってもらうための売り場や接客を心掛けているが、3か月先で変わるのには難しいと思う。
			家電販売店	今年度の動向から、概ね変わらないと予測できる。
農産物直売所			もしかしたら、悪くなっているかもしれない。以前にも書いたが、良くなる要素がない。	
小売業（菓子類）			今月の売上げ、客単価は3か月前より良かったが、特にこの先変化はないと思うので景気は横ばいだと思う。	
小売業（酒類）			周囲の小売業者に比例する部分もあると思うが、3か月で変化があるとは思えない。	
小売業			当地域特有の、コンビナート企業の大規模定期修理の年度で、3月～5月頃に労働人口が激増する。その恩恵で、地域経済が活性化されるので、当社も期待したい。半面、運賃の高騰や雇用難などの不安材料も景気に悪影響を及ぼしている。	
小売業（書店）			特別景気が良くなる要因が見つからないため、変わらないと判断した。	
割烹料理店			お客様の話を聞いていると、仕事はあるが、利益は少ないという話をきくので、自分の業界だけではないのかと思う。	
日本料理店			良い話は聞かない。変わらないと判断したが、人口が減るに従って消費をどう増やすか、どう作るかで我々の仕事やお客様のニーズは増えると思う。	
海鮮料理店			客数は良い天気や予約がある日は多少普段より多くなるが、とにかく客単価が低い。	
企業		観光型ホテル	予約状況が昨年とほぼ同じため、変わらないと判断した。	
		観光型ホテル	先の予約を見ても、変わらないと思う。	
		タクシー運転手	スポーツやイベント開催、コンビナートの定期修理に期待したいが、あまり変わらないと思う。	
		タクシー運転手	長年染み付いた節約志向は抜けず、桜が咲いても浮かれた気分にはならないと思う。	
		ゴルフ場	3か月先は梅雨の時期であり、雨が降ると予約は減少してしまう。天候次第で良い悪しが変わってくる。	
		レジャー施設	例年通りの傾向であれば、大きな変動はないと思う。	
		レジャー施設	お客様の購入意欲、商談の数もあまり変化がない。	
		理・美容店	客数が変わらないので、同じだと思う。	
		住宅販売会社	このまま大きな変化は無いと思う。	
		住宅販売会社	変化がない。	

変 わ ら な い	企業	製造業（食料品）	業界的な問題かもしれないが、件数が減ってきており、客数についても、やや減少している。一般客数も、可処分所得が増えないと上がらない。
		製造業（食料品）	政府の働き方改革の一環で年間残業時間が規制された場合の社員の減収額相当分を全ての中小企業が賄いきれるものなのかを考慮すると先行きの景気上昇は考えにくい。
		建設業	年度末の月なので、完工に向けて数字的には上がっていくものと思うが、来期に向けて新しいことはあまり期待できない。
		建設業	家を建てたい人は多くいると思う。大手建売業者が安く販売している。地元業者は地元の土地が狭く建物も簡単な造りなので、競争すると負けてしまう。主に低所得者が購入している。
		運輸業（道路貨物運送業）	運送関係は生産即納のタイミングが合えば今後も維持できるのではないかと。長期保管の物流は今後減少していくと考えられる。
		不動産業 火力発電所	大きな変化はないと思う。 プラス材料もマイナス材料もない。
雇 用	人材派遣業	・製造業の多い地域であるが、人の動きがあまりない。 ・今後忙しくなるという話もあまり聞かない。	
	民間職業紹介業	現状からして、人材不足は解消できない。	
	公共職業安定所	現在、ハローワークを中心に人手不足（求職者不足）を解消できず、仕事はあるが会社として仕事ができない。当該理由により経営が難しい会社も出てきている。	
	求人開拓員	天候不順等により農作物の価格が安定せず、消費者の購買意欲も冷え込んでいる様子。また、燃料費の価格も安定していない様子である。各事業所においても、以前にも増して求人は出しているが新規の求人ではなく同じ事業所が更新を繰り返しているものが多くみられる。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	人口減少、少子高齢化の流れの中で、同業他社のみならず、他業態でも、ドラッグストア、コンビニエンスストア等食品の取り扱いを強化しているので、厳しさは一段と増してくると思われる。
		洋食食堂	来店客数、売上げともずっと好調だが、人手不足で、店を開店できない日があると思う。特に、土・日・祭日と夜のスタッフがみつからない。
		クリーニング店	少子高齢化のために周りは老人ばかりになっている。年金暮らしのため、少しでも安い物となる。（生産性がない、将来に不安を抱えている。）
悪	企業	製造業（食料品）	経費の高騰が続き、利益が減少すると思われる。
		内装工事業	仕事が忙しい業者も稀にいるが、周りの業者をみると暇だと感じる。
	-	-	-

(4) 県南地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	住宅設計販売	着工予定の棟数が上昇している。
やや良くなっている	家計	百貨店、総合スーパー	良くしていきたいと思う。
		家電販売店	今月と同様に客の購入がこの先続けば、景気が良くなると思うが、季節要因もあると思うので、絶対とは言えない。
		和食食堂	観光シーズンに入るので客が増加する。(90%が他県ナンバー) これは毎年の傾向であるが、ここ数年と比べてもより増加しそうだ。
		洋食食堂	年金によって差はあるが、若い客も単価の高いメニューを選び、祖父母の客もファミリーにご馳走するので、うまいこと記念日やセレモニーで選ばれているように思う。
		寿司店	季節要因を除いても、3月、4月は会合が多いので、宴会等も入り、やや良くなっていると思う。
		タクシー運転手	近くで大きい建設工事が始まり、関係者の利用が増えている。
		タクシー運転手	月に2回程しか散髪に行かなかったお客様が週1回ペースで散髪に行くようになった。
		ゴルフ場	予約状況で推移するにあたり、多少動きが早いコンペも予約が早いようなので、多少良いのではないかと思われる。
		ボウリング場	大企業中心だとは思いますが、ベースアップに期待感が持てるため、やや良くなっていると思われる。
	住宅販売会社	人の動きが活発になってきたので、この傾向はしばらく続きそうだ。	
	企業	製造業(家具・装備品)	多少売上げは上向いていると思うが、3か月過ぎてみないと分からない。
	製造業(印刷業)	取引先が新工場を開始するので、準備として受注数も増えるのではないかと見込	
	雇用	公共職業安定所	一部の企業で3月末に雇用調整が実施されるが、求人数の増加傾向、求職者数の減少傾向が見込まれることから、雇用状況については良くなるものと思料する。
変わらない	家計	スーパー	今後3か月先の景気は変わらないと思う。
		スーパー	変わらないと判断したが、加工食品の一部値上げの影響で悪くなるかも知れない。
		スーパー	食品に関しては出費の上限を設定しているの傾向がある。
		コンビニエンスストア	(買物に来るのは)固定客のため(ほぼ毎日同じ客)、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	この一年間特に変化がないため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	野菜の収穫量・価格も安定し、例年の変わらずの売上げと予測する。
		小売業(食品・酒類)	バレンタイン等のオケージョン(イベント)需要は旺盛だった。同様に5月には母の日需要が控える。客は日頃の感謝を形で表すことに前向きなようだ。
		小売業(生花店)	お客様から2019年の消費税10%増税についての話がちらほら聞こえてきており、今後、生活必需品以外で貯蓄に向かうと思われる。
		専門スーパー	客数、客単価の変化のない状況がこの先も続くと思われる。
		都市型ホテル	この先のオンハンド(先の予約)状況では、宿泊・宴会共に昨年並みか以下であり、月によるところもあり、動きがないことから、あまり景気は変わらなく感じる。
		都市型ホテル	季節的な要因(入学式や歓送迎会)の予約が多いが一般の客の予約に変化はないように思われる。
		タクシー運転手	企業関係の利用が望めそうもない。(不景気の状況)
タクシー運転手	人口増加が見込めない。高齢者地域が増加し、外出や遠出が少なくなっている。		
タクシー運転手	お客様の会話の内容から、変わらないと判断する。		

変 わ ら な い	家計	サービスエリア	常磐自動車道においては、交通量や入館者数の変動が今後も生じるものと想定されるが、お客さま個人の消費傾向についてはそれほど変化はないと思われ、今後3ヶ月間においても特に影響のある事象は見当たらないことから、景気動向についてはとりあえず変化なしと判断した。
		ゴルフ場	季節要因を除くのは業種の性格上難しいのだが、予約ペースは例年並み。料金の問合せ（値下げ交渉）も比較的少ない。
		工場見学案内	旅行会社企画のツアー客数減少が見込まれ、活発な人の動きが感じられない。前年微増のトレンドを維持するためにも、夏にかけて消費行動に繋がる仕掛けが必要と判断している。
		レジャー施設	変動につながるきっかけが見られない。
		理・美容店	客の話だと給料はこの先も増加しそうにないらしいので、3か月ではとても良くなるとは思えない。早く良くなればと思う。
		理・美容店	何にも対策をしていないので変わらないと判断した。
	企業	農業関係者	今年度は米・野菜ともに高値が続いているため、お客様の買控え傾向が一層強まっている。この傾向は、しばらく続く見込み。
		製造業（食料品）	一部景気の良い人もいるようだが、一般的には景気が良くなっているようには思えない。
		製造業（金属製品）	3か月前と変わらない。
		製造業（食料品）	特に景気を左右する要因が見当たらないので変わらないと思う。
		製造業（飲料）	変化はない。
		製造業（窯業・土石製品）	平成30年度予算は成立するだろうが、国会を見ていると全て森友問題に引きづられ、ほうぼうに悪影響が出ると思う。
		製造業（非鉄金属）	人手不足ではあるが、受注状況が常態化しており、生産に大きな変化はない。
		製造業（一般機械器具）	変わるような材料が見当たらない。
		建設業	6月はまだ年度始めなので、工事受注が少ないのは毎年のことである。しかし3か月後の工事受注は割合いあると思うので変わらないと判断した。今の景気と変わらないのは景気が良いということになる。
		運輸業（倉庫業）	運送業界全般的に出入不足となっているので繁忙感があるが、受注できない案件が出てくる恐れがあるため、変わらないと判断した。
	金融業	日経BP社によるアンケート調査では、守谷市が住みよい街に選出されているが、3か月先の景気には影響がなく、住宅投資が急に増加する見込みなども感じられないことから、変わらないとした。	
	雇用	人材派遣業	人材不足は続く予想され、派遣会社にとっては受注が取りやすい状況ではあるが、人材の確保が厳しい状況が続く。
		求人広告	特に変わらない。
学校就職関係者		よくなる、悪くなるような要因が考えられないことから、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	和食食堂	年々高齢者層が増加していき、外食はあまりしない傾向なのでやや悪くなっていると判断した。
		日本料理店	お花見、取手（稀勢の里）相撲巡業、土用の丑の日等で人が出るため。
		旅行代理店	この5～6年の間でも、今年の6月のお客さまからの問い合わせ等も活発な動きが非常に少ないと思う。
	企業	農業関係者	JAでの購買が減少している。 貯金残高の減少、販売高の減少等から、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	製造業（窯業・土石製品）	原材料価格の高騰（特に鉄）によりやや悪くなっていると判断した。
		小売業（米穀）	まだまだ先行き不透明感があり、仕入れ価格の上昇は続くと思われる。

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	和食食堂	最近ではラーメンブームのため、ラーメン店は今後3か月、大丈夫だと思う。工場等の設備投資が増加しているような気がする。作業車や作業着の人を多く見かける。
		日本料理店	
		飲食業	季節的な要因だが、新年度等の行事で人が動くと思う。
		旅行会社	4～6月にかけて、例年通りの予約と新規もあるので、今月よりはよい。
		ドライブイン	建設・鉄鋼業への好影響が、サービス業にも好影響を与える。
		ドライブイン	春闘によるベースアップが期待され、消費に回るよう期待したい。また、団体客の予約も順調に感じられる。予約単価がやや上昇してきている。
		ゴルフ場	冬期（1月から3月）は天候変動が大きく、レジャー全般の需要が悪かったため、その分4月以降は良化すると予測している。
	建築設計事務所	会社からの引き合いが増えた。	
	企業	製造業（化学工業）	季節要因もありエレクトロニクス顧客の受注回復見込み。
	雇用	求人広告	忙しい状況は数ヶ月続くお客様が多い。人手不足からくる忙しさもあるが、売上も好調な企業が多い様に感じる。その為、数ヶ月先ならこのまま好調さは維持されると思う。
求人開拓員		人手不足ということで、求人数が増えたこともあり、就きたい職に就ける人も多くなってきた印象がある。	
変わらない	家計	商店街代表者	良くなる要因がない。
		コンビニエンスストア	今後3か月は景気については、季節変化でも客単価は変わらないため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	環境の変化の情報はなく、変化しないことが予測される。
		家電販売店	現状、客単価が減少しているが、売上げは平年並みのため変わらないと判断した。
		自動車販売店	良くなる材料がない。
		農産物直売所	客単価の大きな変化は見られない。
		専門スーパー	春の定期昇給によっては良くなる要因はあるが、現在の様子からではあまり変わらないと思う。
		和食食堂	特別、お客様の景気のいい話も聞かないし、悪い話も聞かないので変わらないと思う。
		都市型ホテル	今とさほど変わりはないと思われる。
		旅行代理店	これ以上高値が続いたり、お客様が金を使わなかったりしたら、日本の景気はおかしくなってしまうと思う。旅行者も少ない。日帰りバス旅行の費用を5000円で計画しても、集客が悪い。お買い物ツアーよりも、温泉でゆっくりできるツアーが良いかと思うが、お客様が少ないのが現実である。
		ゴルフ場	予約状況から変わらないと判断した。
		ゲームセンター	我々の賃金や労働時間、利用者の動きを見ても、景気が良くなるだろうと判断できる材料がないため、変わらないと判断する。
		理・美容店	人口減少に歯止めがかからない。
住宅販売会社	年度が変わってもしばらく状況は変わらないと思われる。		

変わらない	企業	農業関係者	今期より持続的に安定であると判断しているため現状維持と推測する。
		農業関係者	変わる要因が何もない。
		製造業（食料品）	季節的要因を除くと、新規案件もなく受注減の予定もない。
		製造業（金属製品）	新年度以降の試作・開発用品あるいは量産化の準備段階に入ってきた物件もあるが、業界（得意先）によっては、全く変化のない業界もあり、総体的な業況としては変化しないという現状から、3か月先も変わらないと判断する。
		製造業（一般機械器具）	先の話が少ないため。
		製造業（電気機械器具）	長期的な変動予測は難しいが、この状況は当面継続すると思われる。
		建設業	特に変動を感じない為
		金融業	今後3ヶ月では大きな変化は無いものと思料するが、旧千代川村に「しもつま鯨工業団地」の開発が進んでおり、圏央道の開通効果と相まって、長期的な視点でみると景気の上昇が期待される。
雇用	人材派遣業	求人があっても、良い人材が派遣業に回ってこないため、入社しては辞め、辞めた代わりに補充していることが続いているので、この先も変わらないと思う。	
	公共職業安定所	人手不足の状況は全ての業種で依然続いている。求人件数は派遣、請負求人も含め前年度を上回っている一方、求職者は月ごとにばらつきはあるものの、平均して前年度より1割程度の減少となっている。結果、一部の業種（運送業、介護関係）では、人が集まらず業務縮小を余儀なくされている事業所も出てきている。そうした結果を踏まえ、現在及び今後の景気拡大は順調に進まないと判断する。	
	学校就職関係者	求人企業数は多いが、求職者（生徒）が少ない。職種により人手不足が続くと思われるため。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	競争店の出店予定もあり、商圏内は供給過多の状態。
		衣料品販売店	目的買いの客数が減少するため、やや悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	食材の値上げが続く、仕入れ値が上昇するが、商品を値上げすることは難しい。特段消費が増加する要因も見当たらないので、どちらかと言えば、現状より悪くなると考える。
		レジャー施設	4月からの生活商品等の値上げにより、買い控え等が進み、消費がかなり少なくなると思う。
企業	製造業（印刷・同関連業）	利益率が他業種に比較しても良くないのに、受注競争が激しく、仕事を確保するため「エッ」と思う位の低価格での見積り競争が続いていて、将来の明るい話はまったくない。残念だ。	
	製造業（印刷・同関連業）	供給過多の状態が続く、相変わらずの安値受注が続くと思われる。	
	製造業（印刷・同関連業）	経費節前傾向が益々進展していることに加え、コピー、プリント等の代替手法が多くなってきている。	
	建設業	来期の工事発注がこの地域は少ない様子であることから、やや悪くなっていると判断する。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	物販業は、夏はとて厳しい。水害の影響が長く続いている。
		製茶販売	良くなる見通しが無い。
		タクシー会社	地域の景気も良くなく、法人及び一般客の利用が減少傾向にある。更に乗務員不足が深刻化し、売上増が期待できないため、悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	客から景気の良い話は聞かなくてこない。利用客減少の回復が望めないため、悪くなっていると判断した。
		クリーニング店	値下げの物が多くない限り、景気の上昇は難しいのではないかと。
	企業	製造業（食料品）	良くなる要素が全くない。
製造業（窯業・土石製品）	中国の工場も通常に戻るため、仕事量が減少することは避けられない。当社は、墓石加工メーカーなので、現状の墓離れの風潮を危惧している。		

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	自店のお客様や友人との会話から、正月のおせち・年賀状や、節分の恵方巻きなど、日本の伝統的年中行事が廃れてきているように感じる。節約志向から来ている。
	商店街代表者	ガソリンスタンドの閉鎖や後継者がいないことによる廃業が増えてきている。
	スーパー	電子マネーを導入したら、客単価が少し上昇した。
	スーパー	奥さんと一緒か1人で来店されるシニアの男性が一段と多くなってきている。
	酒・各種商品小売業	70歳代の方は生活に余裕を感じるが、50歳代以下の人にはあまり感じられない人が多いと思う。
	自動車販売店	最近の消費動向として、エコカーを基準にハイブリット車に人気があり、新車ではなく中古車に商談が入ることが多い。
	小売業（弁当・惣菜店）	物価上昇が報道されているが、逆にこちらも価格の改定がしやすくなっている。このことから、適正な利益を求めやすくなってきたようだ。タイミングの問題か。
	小売業（酒類）	食品関係の値上げが目立つ。近隣の消費者の給料は上昇していないという話があり、実質マイナスとの話を多く聞く。
	小売業（水産物）	県北地区の人口流出や少子化で働き手（20～40代）の求人が集まらず困っているという話をよく聞く。
	小売業（時計）	インターネット等で買った商品の特注バンドなどの腕合わせが非常に増加してきて
	レストラン	調査することはプラス志向に考えているが、何か変化があるのか？ 県南から比べて県北の不景気はとて大変と思う。高齢化もあるかもしれないが、良くなる方法を考えてほしい。 市民ばかりでなく、行政と一緒に頑張って茨城は良いところだというPRが足りてないように思う。
	スナック	引き続きエコカーの購入が増加していると思う。
	中国料理店	子育て中の家庭で教育費、通信費、車両費等に費用がかかり過ぎて消費までに回らない気がする。
	食堂	客単価が落ちると思う。預金に力を入れて、家を買わず団地の中古住宅を買う人が多い。
	観光型ホテル	ここ数年変わっていない。 自分が満足できることには、消費を惜しまない。
	観光型ホテル	ここ数年、観光業の衰退は歯止めがきかない状態であり、特に震災後は更に拍車をかけている。
	タクシー運転手	地元の人口流出がかなり進んできている。歯止めがかからないことには、景気回復が見込めないのではないかと思う。
	レジャー施設	昨今地元において新規チェーン店の出店が多くなったので、出店にあたっては出店業者も市場調査をしていると思われる。この地元も将来的には景気の上向きの期待が持てそうだと感じた。
	ゴルフ場	国体関係の宿泊の問合せが増加した。
	ゴルフ場	各市町村の平成30年度の予算が決まり、医療費を中心に健康対策が織り込まれ、スポーツ事業が期待されている。
住宅販売会社	市場的な厳しさは変わらないが、戦略次第では購入意欲を高めることができる。	
企業	林業関係者	新しい事業等が現在つかめていないので、動きは読めない。
	水産業関係者	人材不足の空気を感じ、先行きを悪く感じた。
	製造業（電気機械器具）	人材確保が難しい。新規学卒者の合同説明会に出展したが、昨年より来場者が少なかった。必然的に、当社ブースに来る学生も少なかった。
	製造業（化学工業）	採用が売り手市場になっているため、採用にかなり苦慮している。特に大卒。有効求人倍率は確実に上昇していることを実感する。
	製造業（電気機械器具）	4月以降、生産量の上昇が見込めるが、同時に材料費の上昇もあり、収益面で圧迫されることが予想される。
	製造業（輸送用機械器具）	将来に向けた自動運転や電動化製品の開発競争が一段と激しくなっているが、日本メーカーの信頼性が世界を凌駕し、日本経済を牽引することに期待したい。
	製造業（精密機器）	工作機械の納期が長くなっている。
	製造業（精密機器）	横ばいだが、周りは動きがなくダウンするような話が多い。 まだ新しい情報はないので不安である。
	金融業	依然として人口の流出や空家、空ビルが目立つ。人の流れも、昼も夜も寂しい雰囲気。 企業のみならず、人を集める策、または離れないようにする策が何かしら必要ではないかと思料する。
	不動産業	二極化（売れるものと売れないもの。元気のある企業と元気のない企業）が激しくなってきていると思う。
	運輸附帯サービス業	発注先の作業量が上向き（オリンピック需要だろうか）と言われているので、景気が良くなると思われる。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	茨城国体や、世界湖沼会議などの開催予定のイベントに関する広告などを見る機会が増加した。 これらのイベントに関連する仕事も出てきているようで、景気に良い影響を与えていると感じた。
	商店街代表者	今年は県の組織改正もあり、官公庁の年度末見積り依頼が多く、50ほどの見積り依頼があり、納入できたのは1割程度であった。私たちの業界では、水戸においては価格競争による価格破壊が起きている。東京や大都市では、賃金上昇の傾向で販売価格も値上がり気味になっている。昨日、印鑑メーカーの営業マンが、「茨城県内を回ってみると水戸の価格は酷いと聞いている。」と言っていた。仕事量が少なく、原価割れしてでも、後に繋げるよう仕事を受注している傾向にある。
	百貨店	化粧品動きが引き続き良い。
	スーパー	春闘で賃金のアップがありそうな雰囲気になる気がするので、景気が良くなる予感がする。
	スーパー	販売チャンネルの増加により、様々な販売形態からの購買行動が増えているように感じる。 また、消費の用途も年代によって分かれるが、以前よりも趣味、レジャー、余暇に使われる割合が増えているように感じる。
	スーパー	景気はだんだん良くなっていると思うが、それ以上に近隣の人口減少競争激化によって施設自体の集客数が減少しているのが大変厳しい。
	コンビニエンスストア	近隣の食品スーパーが撤退したにもかかわらず、以前に比べ売り上げ増にならない。これは、この地域の消費に対する変化（世帯・年代・人や車の流れ等）であり、店頭周辺での消費の落ち込みを表していると思う。
	農産物直売所	3月に入り、バスでの立寄り台数がやや多いが、見学のみで買上げは伸びていない。
	レストラン	プレミアムフライデーがスタートして1年、毎月メニュー内容等を変えて企画商品を販売しているが、普段利用している方がお得感で注文している状況である。
	レストラン	食材原価の上昇が止まらない。
	割烹料理店	とにかく野菜の高騰には頭を抱える。
	観光型ホテル	数年前はシルバー層が中心だったが、最近は若い家族連れやカップルも目立ってきた。
	バス運転手	毎年の観梅でお客様が増加したような気がする。
	タクシー会社	個人のお客様の御意見として、年金や医療費負担等の話題が報道されている中で先行き不安があり、切り詰めて生活するように心がけている。
	ドライブイン	インバウンドの旅行者が年々増加している。
	観光名所	パート・アルバイトの求人数は多く、求人をかけてもアルバイトの確保がどこの企業も難しいのではないかと感じる。反面、正社員の採用は地方では少なく、都心部のみ売り手市場なのではないか。
	レジャー施設	少子化だけでなく、土曜日にも学校があるといったことから、「学童が少ない」感がある。反面、大人の動きはあると思う。以前は、子どもがいれば、時間をかけて滞在時間も長かったが、長い時間をかけずに次の施設へと、今では滞在時間は短いように思われる。景気的には、家族（祖父母・2世代）が増加すれば景気を測りやすいと感じている。
	ゴルフ場	景気が良くなっているのかと思えるほど、客の利用単価が増加傾向を示している。
	ペット美容室	公務員の定年延期、年金延期、支給されるまでの繋ぎの所得を考えさせられる。預金のない場合はどうしたら良いのだろう・・・。 いずれの時代も底辺にいる者にとってはきつい。
	住宅販売会社	前回同様、購入意欲の高まりを感じる。土地の動きも良くなってきた。
企業	製造業(食料品)	仮想通貨に手を出す人が増えたが、経済に良い影響があるとは思えない。
	製造業(印刷・同関連業)	伸びている会社も若干あるが、当社付き合いの会社はあまり変化しない。
	製造業(印刷・同関連業)	お客様との会話でも良い話が出ていない。価格競争が激化しているように感じる。
	製造業(窯業・土石製品)	比較的見積り依頼が増加してきてはいるものの、受注に繋がらない。
	製造業(一般機械器具)	やや元気が出たが、人手不足で職人が足りない。
	製造業(精密機械器具)	これまでにない全体的な製品の引合いであり、製品によっては在庫がゼロになっている。過去と比較して高い売上げと利益が見込まれる。
	建設業	動くお金が出る風の閉塞感、身のまわりの「もの」に価値を感じ取れない。
	運輸業(道路貨物運送業)	必要以外の無駄な買い物をしていない傾向にある。
	金融業	水戸の梅まつりが2月17日から3月31日にかけて開催されており、バスガイドによる案内が行われるなど、新たな取組みによって来場者が増加しているように感じる。
	不動産業	単身よりも家族世帯のお部屋探しが増えている。
	サービス業(広告業)	市内の繁華街に行っても、ほとんど人を見かけない。3月でこの状況は厳しいと思う。
サービス業(広告業)	先日、休日を利用してスキーに行った。以前と比べると客が増えたように感じた。冬季オリンピックの影響があると思う。	
雇用	求人広告	高卒新卒採用企業が増加している。
	公共職業安定所	当所が管内企業400社を対象に独自に実施した調査(200社から回答)によると、建設業・製造業・情報通信業等で東京オリンピック特需の恩恵を受けている企業もあるようだが、その分、オリンピック後の落込みに不安を抱いており、長期的な視点での人材確保には慎重な面もある。幅広い業種・職種で人手不足感がひっ迫しており、従業員が残業でカバーするなど長時間労働の是正は難しく、従業員の疲弊を危惧している様子がうかがえる。
	学校就業関係者	空き店舗となっていたスーパー跡地の広い敷地に新たなスーパーの新設が行われている。開店に伴い、近隣スーパーへの影響が心配される。
	求人开拓員	複数名募集の求人が、正規雇用、非正規雇用ともに見る機会が増えてきたように感じる。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	中心市街地活性化への取組みが検討されている中で、新たな“まちづくり会社”が設立される。商店街回遊性の仕掛けを我々も積極的に参画し、保っていきたい。
	スーパー	野菜高騰により、価格変動の小さいカット野菜類やキノコ類、冷凍野菜等へのシフト傾向が見られた。健康志向に反映して、納豆、甘酒など引き続き好調に推移している。
	コンビニエンスストア	客数は減少気味だが、客単価は上昇傾向で、一人のお客様のまとめ買いが見られる。
	コンビニエンスストア	工業地帯定期修理の準備のため、他県から多くの作業員が来ている。
	衣料品販売店	近年、1点当たりの単価が上昇している。安い物をたくさん買うというお客様が少しずつ減少し、良い物やコスバが良い物を1点買うというお客様が増加している。
	家電販売店	景気のせいかわ不明であるが、ボーナスについては、収入の確定後に買い物をする傾向がある。
	農産物直売所	良くなりそうな話を聞かない。良くなる実感を持っている人がいない。
	小売業（食品）	原材料等（砂糖、醤油ほか）の仕入先の動きが良いように感じるので景気が良いのではないかと思う。
	洋食食堂	・満席時でも待ってくれるお客様が増えている。以前は待って食事をするお客様はなかった。 ・3000円から5000円くらいの予算のコースを注文するお客様がととも増えている。
	日本料理店	接待としての利用は企業より個人会社の方が多くなった。
	海鮮料理店	個人事業者は、金をかけるのには限度がある。アイデアがあっても実行できず、大手は安く同じ地域に何店舗も出店するので、ファミリー層が昼食や夕食等で利用していて大変厳しい。
	タクシー運転手	ファミリーレストランに限らず、個人レストランや洋食屋でも、工夫した内容でランチタイムにセットメニューを出している店には客が入っている。（女性が多い感じがする。） 少額で少しだけでも気持ち的に満足できればと思っているのではないかな。
	ドライブイン	寒い冬だったため、茨城の名物である、干し芋の売れ行きが好調だった。
	ゴルフ場	大人数で利用できる飲食施設が少なく、ゴルフ場を利用するケースが増加している。
理・美容店	中古車より新車が売れる。外食が多い。趣味に金をかける人が多くなった。	
企業	農業関係者	最近のお客様の購買意欲が、前よりは上がっている感じがする。
	製造業（食料品）	以前のような閉塞感がないので、中小企業の給料さえ上がれば良いのではないかな。
	製造業（食料品）	前浜水揚げのサバ・イワシ類が国の水産物輸出奨励策もあって、冷凍品の海外輸出が大幅に伸びている中では、国内加工原材料向けとの競合が懸念される。
	製造業（電気機械器具）	景気は上向きであると感じているが、業種を問わず人手不足が懸念されている。受注増加を受け止めきれない可能性もあり、やや不安だ。
	製造業（金属製品）	受注増等に対応できず、仕事の量を少なくする企業も多い。仕事量と人手の問題は大きな転換点だと思われる。
	建設業	働き方改革が叫ばれているが、休みが増えても給与に反映されていない気がする。
	運輸業（道路貨物運送業）	今年の観梅は、外国人のツアー観光客が非常に目立っている。人の流れが都市から地方へ確実に浸透していると感じる。
	金融業	大型店の出店や複合商業施設がオープンしているなか、足もとの景気回復感が賃金へ波及して実感されはじめれば、消費につながっていくのではないかな。
雇用	保険業	ウエルシア薬局前にカワチがオープンした。
	内装工事業	公共事業の工事が、この年度末には見かけることがない。それでも一部の業者がどうにか動いているくらいで、今後が危ぶまれると感じる。
雇用	民間職業紹介業	やはり現在の日本の労働者環境は大変厳しい状況だ。国をあげてその解消を早急に取り組むべきである。外国人労働者への在留資格の緩和なども検討すべきである。
	公共職業安定所	現在の景気は表面的である。なぜならば、賃金が上がらないからである。30年前のバブルの頃の求人賃金は賃金を上げる体力があった。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計	スーパー	スーパー各社の特色のある曜日に来店が集中している。	
	小売業(食品・酒類)	物を購入する楽しさも根強いが、自分に投資をしたり、時間を楽しむ消費(コト消費)も根強くある。食事を皆で楽しむのもその一例。	
	小売業(生花店)	工場や事務所の新規開設や増設(増床)に伴うお祝いの高額商品が増加している。	
	小売業(米穀)	どの業種でも、相変わらずの人手不足。引越し業者が繁忙期に入るが、人手不足のため、料金が通常の何倍にもなっているようだ。(4月いっぱい迄)希望日時も指定出来ないそうである。	
	和食食堂	夜の飲食は減少している。3月は他の店も客が入っていないようだ。	
	和食食堂	客も少ないが、働く者も少ない。同業者も人材確保のために時給を上げている。地域の時給の圧迫感に歯止めが付かない傾向が気になる。	
	日本料理店	・飲酒しない分、料理の単価が上がっている。 ・観光バスが昨年より増えた。	
	洋食食堂	落ち着いている感じである。	
	寿司店	3月、4月と引き続き大手ビールメーカーが値上げをする予定で、飲料の他にも様々なものが値上げして大変。	
	都市型ホテル	つくば駅前のショッピングセンターを含めて空洞化が目立つ一方、テナント募集の看板が目立つ研究学園駅は好調に推移しているように見え、景気もエリアでの違い、顧客のお金の使い方、使わせ方で上げ下げがあるようだと言業先で話を何度か聞いている。	
	旅行代理店	これはと思うハッキリとしたものは分からないが、何か消費に対してセーブしているというか、様子を見ているような、積極的な動きが見られない。	
	サービスエリア	パート・アルバイトの募集をするも、応募が少なく困っている。	
	ゴルフ場	米国の景気を気にした言動を耳にする。円相場の変動には敏感になっているお客様が多い。	
	ゴルフ場	冬季オリンピックでメダルが多数獲れ、パラリンピックも好成績で盛り上がりを感じている。来訪者からもその話題がよく出ており、同じスポーツという面での盛り上がりはありがたい。	
	企業	工場見学案内	見学塔内ショップでの売上げが顕著に上昇してきている。見学者数微減を客単価アップでカバーしており、1人当りの購買意欲は上昇傾向にあると思われる。
		レジャー施設	牛久沼近辺に新たに道の駅が建設されることとなった。竣工は数年先だが、建設地近辺への民間投資の動きにも一定の期待が持てる。
理・美容店		企業の業績は良くなっているにも関わらず、社員の給料に反映されていないようで、少しライラしているように思う。客の不満が爆発しなければと思う。	
住宅設計販売		県外からの問合せが多い。	
住宅販売会社		株価の落ち込みが気になるが、各社決算前後には持ち直すと思われる。	
農業関係者		飲み会の減少。費用がかかる集り等、参加人数が少なくなっている。	
製造業(家具・装備品)		当地は商業都市だが、その中で個人経営の店が少なくなっている。私共の商店会も商店街のイメージがなくなりそうだ。残念ながら個人住宅が多くなった。	
製造業(印刷業)		製造業においても原材料等あらゆるものの値上がりが見られる。	
製造業(窯業・土石製品)		昨日の新聞に、当社の主力製品の価格動向が掲載されていたが、価格は上がっても、原材料、輸送コストの値上がりもあり、なかなか大変だ。	
製造業(窯業・土石製品)		大手企業では倍額の賃上げとなっているが、中小企業での賃上げは利益の減少に大きく影響するので、厳しい状況。	
製造業(非鉄金属)	人手不足。外国人雇用増加。		
建設業	近辺の小規模事業者を見ていると日曜も休みなく働いている。昔のように朝早くから夜遅くまで働いている訳ではないだろうが、以前よりみんな仕事をしている気がする。		
運輸業(倉庫業)	引っ越し難民等を耳にする機会が増加している。ドライバー不足が深刻化している。		
金融業	土浦駅の新駅ビル「ブレイアトレ」に、カフェや自転車店など8社が出店する。核施設で県が運営する自転車拠点「りんりんスクエア土浦」のほか、商業施設初出店や新業態店も開店。多種多様な業種が店舗を出店。カフェやレストラン、クッキングスタジオを含む大型店も11月に開店される予定であり、土浦駅ビルの活性化が図られている。		
雇用	人材派遣業	今まで求人を出していなかった大手企業が、新卒者採用の求人を出したことにより、毎年求人を出していた地元企業の新卒採用ができなくなっている。働き方改革対応で、更に人手不足が加速している。	
	公共職業安定所	特徴的な動きは見られない。	

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	今年の冬はととても寒く、かつ長く続いたので客が出掛けない。大変厳しい冬だった。
	商店街代表者	野菜の高騰で頭が痛い、スタッフの流動で頭が痛い、売上があがらず頭が痛い・・・当店だけの負の要因でしょうか。
	スーパー	人手不足、採用難の話をほとんどの方が口にする。人材確保、流出対策の理由で、人件費率が上昇している。
	メガネ・時計販売店	数は多くはないが、単価の高い物が以前より売れるようになった。
	専門スーパー	パート社員が集まらず、人手不足で困っている。
	製茶販売	若い人たちの方が、趣味などにお金をかけるようになってると思う。
	和食食堂	最近、境町においてもレストラン（個人店）が2軒増え、この4月には大型店の宴会場がオープンし、10月頃には道の駅さかいの飲食店ビル（レストラン2軒、カフェ1軒）ができ競争が激化していて個人店には脅威である。
	和食食堂	毎日が忙しいため、当分は大丈夫だと思う。
	日本料理店	人手不足、人件費高騰、原材料高騰。
	飲食業	少子高齢化の影響が始めている気がする。
	都市型ホテル	今年は地元で中核病院が開院する。また数年の間に道の駅もできる予定である。東京オリンピックもあと3年を切り、人が動いてくれることに期待している。
	旅行会社	インターネットの普及により、個人消費はネット依存が増大になってきているため、業界的には増々厳しいことになってくる。
	旅行代理店	65歳の先輩の方曰く、「年金は減り、物が高くて買えず、生活するのがやっと。」とのこと。「まして、一人暮らしでは燃料も買えない。貧富の差が広がった。」とも言っていた。
	ドライブイン	4月より、原材料・商品・サービスの価格改定（値上げ）の依頼が相次いでいる。販売価格に転嫁しずらく苦慮している。
	ゴルフ場	坂東北付近の工業団地を中心に工事着手が多く見受けられる。ダンプカーの横行が多く見られ、地域が活性化している雰囲気がある。
	理・美容店	圏央道インターチェンジ付近の開発に期待したい。
建築設計事務所	階級社会が身近でも感じられる。	
住宅販売会社	圏央道が開通したが、まだ良い動きは感じない。	
企業	製造業（食料品）	ガス等の光熱費増加に加え、原材料費の値上げもあり利幅の圧縮傾向にある。
	製造業（印刷・同関連業）	郊外に、大手・中堅問わず、スーパー・くすり・居酒屋等、ありとあらゆる業種の出店が続いている。どの市・町にも共通するが、会議所・行政が中心となってもっと対策はないのか。若い、元気な若者・後継者達が頑張れる世の中にしたと思うが・・・。
	製造業（印刷・同関連業）	役所（市役所等）は来期予算の3割減を達成している。会社関係も同様で一般商店等は益々先細りの傾向にある。都市間の格差が広がってきていることと連動しているのかも知れない。
	製造業（窯業・土石製品）	地方は景気が良くないと言われているが、先週、家の近くのせんべい工場で通常価格より2～3割ぐらい安いバーゲンセールがあり大盛況だった。私達の業界は廃業する業者が続出なので、業種により伸びているところがある一方、衰退しているところもあり商売もいろいろだと実感した。
	製造業（金属製品）	当社は数年前から拡販活動を行っており、大手・中堅企業からの引き合いが出てきた。発注企業は仕事を抱えているのではないだろうか。
	製造業（一般機械器具）	近辺に運送業者の倉庫が多くなってきた。
	建設業	業種によっては、本当に暇で困ったと言う社長もいるので、偏りがある様子。また、人手不足が本当に深刻で、仕事の遅れが心配だという話も耳にした。
	金融業	昨年4月にオープンした「さん歩の駅サン・SUNさぬま」と「Waiwaiドームしもつま」により、人の流れが徐々にできつつある。特に「さん歩の駅サン・SUNさぬま」は、平日でも駐車場が足らなくなる日があるなど好評の様子。
	不動産業	売買客が増加し、成立単価も上昇している。
	サービス業（コンサルタント業）	日野自動車の本格稼働に伴い、通勤車両や新車の陸送等で道路は通行量が増加し賑わいはあるが、そのことが私たちの身の回りに影響を与えてくれているかは大いに疑問である。地元企業に効果が現れてくるのは暫く先のような気がする。
雇用	求人広告	飲食店に行っても、最近はお客さんが溢れている様子が目に付く。車販売店に行った時も、案内まで1時間かかるなど景気が良さそうな場面が目につく。
	学校就職関係者	・人手不足により2年後の新卒者の求人依頼が多数ある。（遠方からの求人問い合わせも増加） ・野菜類の高騰で、全体的に食料品の物価上昇が感じられた。（野菜を手に取り買うのをやめた。）